

# CSRの取り組み

お客様とともに	68
お取引先様とともに	77
従業員とともに	79
株主・投資家の皆様とともに	87
地域社会とともに	92
国内工場・技術センターの取り組み	101
国内販売代理店の取り組み	107
海外グループ会社の取り組み	110
スズキの財団活動等	118

## お客様とともに

スズキでは、常にお客様の声に耳を傾け、お客様の立場に立ったものの考え方をすることにより、お客様から信頼されご支持いただける商品の開発、サービスの提供に努めてきました。スズキは、これからもこの努力を惜しむことなく、お客様のご期待に応えていきます。

### お客様相談室

スズキお客様相談室には、年間で約12万件(2016年度実績)のお客様からの声が寄せられています。

お客様とスズキが直接つながる窓口として、これらの様々なお申し出に対し、お客様の立場に立った迅速で的確、丁寧な対応を心がけ、お客様に安心とご満足いただける相談室を目指して、日々CSの向上に努めています。



#### 対応品質の向上

ハイブリッド、エネチャージ、衝突被害軽減システムといった環境・安全技術、ネットワークと連携する車載情報機器など、自動車の構造はますます複雑化しています。スズキお客様相談室では、こうした新技術へのお問合せはもとより、初めて車を運転されるお客様の初歩的なご質問やリコール修理のご相談など、多様なお申し出に対し、わかりやすい説明を心がけ、安全・安心してご利用いただける対応に努めています。また、迅速・的確な対応をさせていただくため、お客様サポート支援システムなどのツール整備を図るほか、製品のご購入やメンテナンス等、当地での対応が必要なご用件には、全国のスズキ・ネットワークと連携して、適切なサポートを実施しています。

#### 利便性の向上

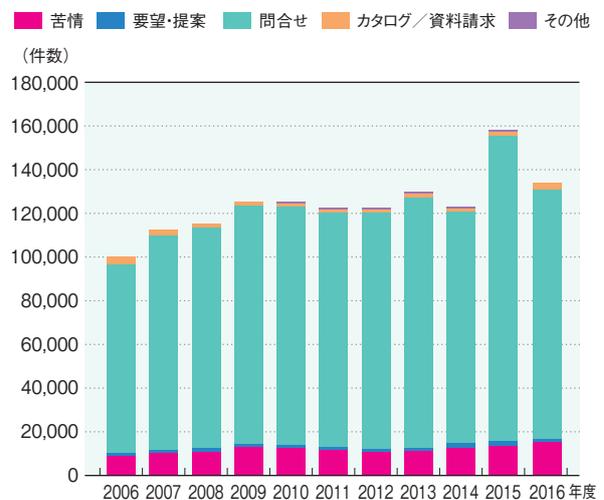
お客様からの多くのお申し出に対してスムーズに対応させていただくため、一般加入電話・携帯電話からのフリーダイヤル受付や、インターネットからの受付等、多様なメディア環境を整備するとともに、休日受付の実施等、利用しやすいお客様相談室を目指してアクセスの利便性の向上を図っています。

#### 製品・サービス品質の向上

お客様からいただいた貴重な声は、品質やサービスを向上させるための“大切な宝物”と捉え、お申し出を社内各部門に伝えて、商品開発、製造、品質、販売及びアフターサービス等の改善や向上につなげています。これらの貴重な情報は、データを一元管理するシステムによって効率的に管理し、個人情報の保護に配慮した上で社内イントラネットに掲載するほか、情報の重要度に応じて即時に社内展開する体制作りも行っています。また、直接的なご意見、ご要望だけでなく、集められた情報を精査することにより、お客様の潜在的な要望を抽出してまとめ、担当部門に情報提供する場合があります。

スズキお客様相談室は、今後も皆様がより利用しやすく、安心して信頼のできる「お客様相談室」を目指し、常に業務の改善に努力してまいります。

お客様相談室受付件数の推移



## 福祉車両(ウィズシリーズ)

スズキは身体に障がいのある方やご高齢の方が容易に四輪乗用車に乗降できるように設計した福祉車両(ウィズシリーズ)を1996年から提供しています。

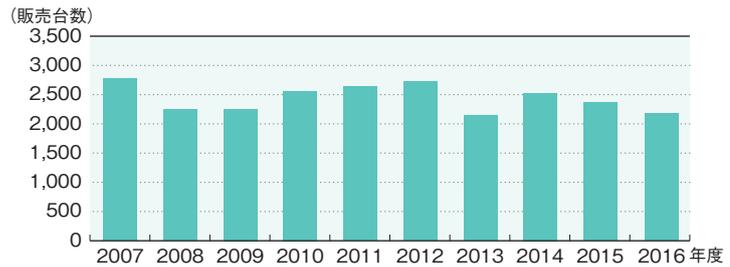
現在は「車いす移動車」、「昇降シート車」の2タイプ4車種を設定しています。目的や使用環境に合わせてお客様が選択しやすいように福祉車両の充実を図っています。

スズキ福祉車両

WITH  
シリーズ



ウィズシリーズ販売台数



### 車いす移動車

要介助者が車両後部から車いすに座った状態で乗降できる車両です。低床設計のため、介助者は容易に要介助者を乗降させることができます。この車両には手動車いすや電動車いすを載せることができ、スペーシア、エブリイワゴン、エブリイに設定しています。



### 昇降シート車

リモコンで要介助者のシートを上昇、回転、降下させることができる車両です。要介助者が乗降する際、シートを乗降しやすい位置まで動かせるため、介助者の負担が軽減します。ワゴンRに昇降シート車を設定しています。



## 電動車いす

スズキは、身体に障がいのある方やご高齢の方が目的や使用状況に合わせて選択しやすいように電動車いすのラインナップを充実させています。

※電動車いす(セニアカー、モーターチェア)は道路交通法上、歩行者として扱われ、運転免許は不要です。

### セニアカー

自採用ハンドル形の電動車いすで、1985年に販売開始しました。ご高齢の方や足腰の不自由な方が気軽に外出できるように作られた電動車いすで、時速2~6km(タウンカートは時速1~6km)で速度の調整が可能です。



ET4D



ET4E

### タウンカート

市街地や都市部での使用に配慮したコンパクトタイプのセニアカー。速度調節が時速1～6kmの範囲で可能で、1.1mの旋回半径で小回りがききます。



タウンカート

### モーターチェア

自操用標準形の電動車いすで、1974年に販売開始しました。この電動車いすは身体に障がいのある方用として開発したもので、方向や速度を操作レバー（ジョイスティック）で操作し、2つのモーターで後二輪をそれぞれ直接駆動することによりその場での旋回を可能にしています。屋内外で利用でき、利用者の行動範囲を広げます。



MC 3000S

### ●安全運転講習会“事故防止に向けて”

スズキは電動車いすを「より安全に」ご利用いただくため、電動車いす専任販売員を配置しての対面販売並びに実車を使った取り扱い指導を実施し、製品の取り扱い方法について理解を深めていただくよう取り組んでいます。更にご購入いただいた後も地域警察や交通安全協会等と協力し「電動車いす安全運転講習会」を実施しています。講習会では講義と実技講習によって受講者の交通安全意識の向上を図り、交通事故等の防止に努めています。

さらに、スズキは新規に電動車いすをご利用される方がより安全に運転をされるよう、安全利用のための冊子やDVDを配布し安全運転の啓発を進めています。



### 安全利用のための冊子・DVD 配布実績

	2014年度	2015年度	2016年度	3年間計
冊子	12,477冊	10,000冊	8,153冊	30,630冊
DVD	3,280枚	5,958枚	4,772枚	14,010枚

冊子及びDVDの内容は電動車いす安全普及協会のホームページでご覧いただけます。

<http://www.den-ankyo.org/>

### ユーザー安全運転講習会 開催実績の推移



### ●電動車いす安全普及協会での活動

電動車いす安全普及協会（電安協）とは、利用者に電動車いすを正しく安全にお使いいただくために、メーカーや販売会社等が発足させた団体のことです。電動車いすの安全かつ健全な利用を推進することによりその普及を図り、道路交通の安全に寄与することを目的としています。スズキは、電安協の会員として、電動車いすを安心して利用する活動を推進しています。

### ●電動車いす安全指導表彰制度について

電動車いす安全指導表彰制度とは、電動車いすの安全利用方法等について、交通安全教育、広報啓発活動を促進し、電動車いすが関係する交通事故を防止するための活動を積極的に実施している電動車いす関係者を警察庁交通局が表彰する制度です。スズキは、電動車いす安全普及協会（電安協）の事務局として、電動車いす安全指導表彰制度を積極的に推進しています。

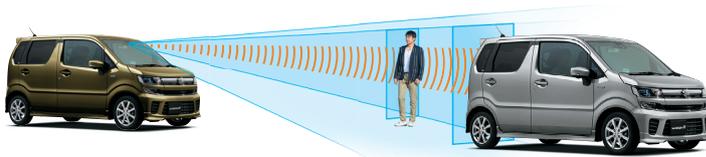






## 単眼カメラ+レーザーレーダーの強みを活かして危険を回避する 「デュアルセンサーブレーキサポート」

フロントガラスに設置した2つのセンサーで、前方の歩行者やクルマを検知。近距離や夜間の検知に優れたレーザーレーダーと、歩行者も認識する単眼カメラを組み合わせ、コンパクトなシステムを実現しました。自動ブレーキ機能や誤発進抑制機能など、6つのサポートで万一の危険を予防します。



単眼カメラ+レーザーレーダー認識イメージ

単眼カメラ+レーザーレーダー



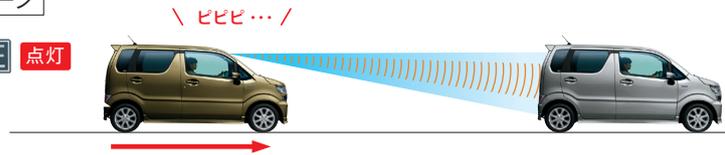
単眼カメラとレーザーレーダーがワイパー作動域にあるため、雨天時にも作動します。  
※著しく天候が悪い時(大雨、雪、霧など)は作動しない場合があります。

### 前方衝突警報機能

走行中、単眼カメラとレーザーレーダーが前方の車両や歩行者を検知。衝突の可能性があると判断すると、ブザー音とメーターおよびヘッドアップディスプレイ内の表示によって警報を発します。

作動イメージ

**BRAKE** 点灯  
+ ブザー



### 前方衝突被害軽減ブレーキアシスト機能

前方の車両や歩行者との衝突の可能性が高いと判断し、ドライバーが強くブレーキを踏むと、ブレーキアシストが作動して、ブレーキ制動力を高めめます。

**BRAKE** 点灯  
+ ブザー



### 自動ブレーキ機能

「このままでは衝突が避けられない」とシステムが判断した場合には、自動で強いブレーキをかけ、衝突の回避または衝突時の被害軽減を図ります。

**BRAKE** 点灯  
点滅  
+ ブザー



作動したときの速度が約5km/h～約50km/h未満(歩行者の場合は約5km/h～約30km/h未満)であれば、衝突を回避できる場合があります。周囲の環境や対象物の動きなどによっては、警報のみでブレーキが作動しない場合があります。また、警報と同時に自動ブレーキが作動する場合があります。

\*自動ブレーキ機能作動時は強いブレーキがかかりますので、走行前に全ての乗員が適切にシートベルトを着用していることをご確認ください。  
\*自動ブレーキ機能による車両停車後は、クリープ現象により前進しますので、必ずブレーキを踏んでください。



## 誤発進抑制機能

シフトを「前進」の位置に入れて停車または徐行中(約10km/h以下)に、前方約4m以内の障害物を認識。誤ってアクセルを強く踏むと、エンジン出力を最長約5秒間制御して急発進・急加速を抑制すると同時に、ブザー音とメーター内の表示・表示灯によって警報。駐車場などでの操作ミスによる衝突回避に貢献します。



表示



※ブレーキをかけて車両を停止させる機能はありません。



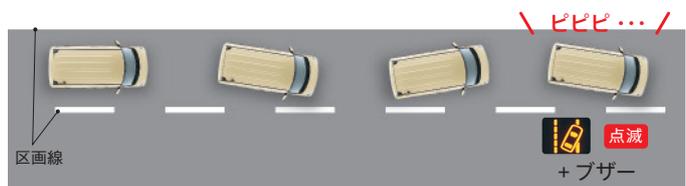
### 車線逸脱警報機能

約60km/h～約100km/hで走行中、車線の左右区画線を検知し進路を予測。前方不注意などでクルマが車線をはみ出すと判断した場合、ブザー音とメーター内の表示灯により警報を発し、ドライバーに注意を促します。



### ふらつき警報機能

約60km/h～約100km/hで走行中、車線の左右区画線を検知し、直前の走行データをもとに自車の走行パターンを計測。眠気などで車両が蛇行し、システムが「ふらつき」と判断した場合、ブザー音とメーター内の表示灯によって警報を発し、ドライバーに注意を促します。



### ハイビームアシスト機能

ハイビーム/ロービームの切り替えをアシストして、ハイビームの使用機会を増やし、夜間の歩行者などの早期発見に貢献します。

■ハイビームで走行中、先行車・対向車のライトを検知すると



■先行車・対向車がなくなると



### 先行車発進お知らせ機能

シフトが「前進」または「N」の位置でブレーキ操作をして停車中、先行車が発進すると自車との距離を計測。先行車が約5m以上離れても、自車が停車し続けた時に、ブザー音とメーター内の表示によって、ドライバーに先行車の発進をお知らせします。



### エマージェンシーストップシグナル

約55km/h以上で走行中に急ブレーキを検知すると、ハザードランプが自動で高速点滅。後続車に急ブレーキを知らせ、注意を促します。

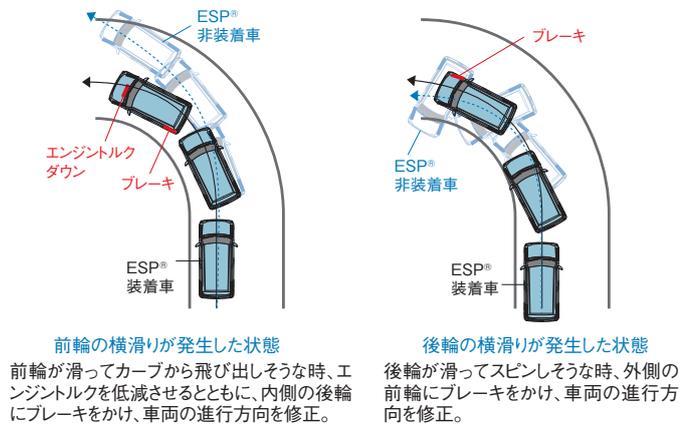




### ESP® [車両走行安定補助システム]

ESP®はコーナーなどでの横滑りを抑えるスタビリティコントロール、発進・加速時に駆動輪の空転を抑えるトラクションコントロール、急ブレーキ時にタイヤのロックを抑えるABSを総合的に制御するシステムで、さまざまなセンサーによって走りを監視し、必要に応じてコンピューターがエンジンとブレーキを制御することで車両の安定走行に貢献します。

※エンジントルク低減の度合いやブレーキをかける車輪とその強さは走行状況により変化します。ESP®はあくまでも安定走行を補助する装置です。タイヤと路面間のグリップの限界を超えてスリップや横滑りを起こした場合はESP®が作動したとしても、その効果は期待できません。



●ESPはDaimler AGの登録商標です。●ESP=Electronic Stability Program



<デュアルセンサーブレーキサポート・誤発進抑制機能・車線逸脱警報機能・ふらつき警報機能・先行車発進お知らせ機能・ハイビームアシスト機能について>

- 検知性能・制御性能には限界があります。これらの機能に頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。
- 状況によっては正常に作動しない場合があります。
- ご注意ください項目がありますので、必ず取扱説明書をお読みください。

<デュアルセンサーブレーキサポートについて>

- 対象物、天候状況、道路状況などの条件によっては、衝突を回避または被害を軽減できない場合があります。
- ハンドル操作やアクセル操作による回避行動を行なっているときは、作動しない場合があります。
- 詳しくは販売会社にお問い合わせください。

## TOPICS

### JNCAP予防安全性能アセスメントの最高ランク評価「ASV++(ダブルプラス)」を獲得

スズキは2016年度JNCAP※1 予防安全性能アセスメントで最高ランクの評価「ASV++※2」を獲得したモデルを続々と投入しています。

ステレオカメラ方式の衝突被害軽減システム「デュアルカメラブレーキサポート」を搭載した小型乗用車「イグニス」「ソリオ」、軽自動車「スペースア」「ハスラー」に加え、単眼カメラと赤外線レーザーレーダー方式の「デュアルセンサーブレーキサポート」を搭載した小型乗用車「スイフト」、軽自動車「ワゴンR」が、優れた予防安全技術を搭載した自動車として最高ランク評価を獲得しています。

JNCAP予防安全性能アセスメントは、国土交通省と独立行政法人 自動車事故対策機構(NASVA※3)が自動車の先進安全技術について評価し、結果を公表する制度です。2016年度の評価対象は「前方車両に対する衝突被害軽減ブレーキ(AEBS※4)」、「車線はみ出し警報(LDWS※5)」、「後方視界情報(バックビューモニター)」、「前方の歩行者に対する衝突被害軽減ブレーキ(AEBS)」の4項目で71点満点の評価点が与えられます。評価点の合計が12点を超える場合は「ASV+」として認定され、さらに46点を超えると「ASV++」に認定されます。

2016年度に当社が発売した乗用車(軽自動車+登録車)のうち、上記のブレーキサポートを含めた衝突被害軽減ブレーキ全体の搭載率は約6割となっています。スズキは今後も「安全技術の取り組み」を強化し、積極的に安全性を向上させてまいります。



#### スズキの「ASV++」獲得車種

	衝突被害軽減ブレーキ	車種※6
ASV++	デュアルカメラブレーキサポート (ステレオカメラ方式)	イグニス、ソリオ/ソリオバンディット スペースア/スペースアカスタム、ハスラー
	デュアルセンサーブレーキサポート (カメラ+レーザーレーダー方式)	スイフト ワゴンR/ワゴンR スティングレー



※1 Japan New Car Assessment Program

※2 Advanced Safety Vehicle ++

※3 National Agency for Automotive Safety and Victim's Aid

※4 Autonomous Emergency Braking System

※5 Lane Departure Warning System

※6 衝突被害軽減ブレーキ「デュアルカメラブレーキサポート」もしくは「デュアルセンサーブレーキサポート」及び「全方位モニター」を搭載したモデルが対象。

## 二輪車における取り組み

### 二輪車業界団体との協力による安全と防犯への取り組み

(一社)日本二輪車普及安全協会に参画し、二輪車安全運転推進委員会と協力して、「二輪車安全運転実技講習会」等への指導員派遣や、「グッドライダーミーティング」等、安全運転講習会の開催に努めています。

また、二輪車の盗難防止を目的に実施している「グッドライダー防犯登録」の普及推進にも協力しています。

(一財)全日本交通安全協会主催の「二輪車安全運転特別指導員育成講習会」や「特別指導員中央研修会」にも専門員を派遣し、指導員の育成・普及推進に協力すると共に、毎年行われている同協会主催の「二輪車安全運転全国大会」には、競技用車両の提供や審判員の派遣を行い、広く二輪車の安全啓発活動に取り組んでいます。

8月19日は「バイクの日」として、(一社)日本自動車工業会等の業界団体と協力し、バイクの楽しさと交通安全をPRするイベントの開催等を行っています。



### 「スズキ セーフティスクール」の開催

2008年よりスズキの二輪車を購入された一般のお客様を対象に、竜洋コース内二輪車教習所にて、手軽に楽しく安全運転が学べる「スズキ セーフティスクール」を開催しています。

対象は、運転に自信のないビギナー、久しぶりにバイクに乗るリターンライダーから、運転には自信があるが、再度、基本や新交通ルール・マナーを学びたいというベテランまで、幅広く受け入れています。

「走る・曲がる・止まる」といった基本カリキュラムから、「危険予測」・「ハイウェイ体験走行」まで、セットで楽しく学ぶことができる講習会として、2016年は7回開催しました。



## 「バイクのふるさと浜松」への協力

国内オートバイ産業発祥の地である浜松から全国へ、その情報や文化、魅力の発信を行う「バイクのふるさと浜松」。2003年より開催され、2016年は14回目の開催となりました。スズキはこのイベントに協力することで、二輪車に憧れものづくりを担う次世代の人材育成や、ツーリング企画、観光産業を通じた、二輪車愛好家を集う街づくりに貢献しています。



## 社内安全運転講習会

二輪車を製造・販売しているメーカーとして、新入社員や二輪通勤者、関連会社、代理店社員等を対象に、「二輪車安全運転講習会」を毎年定期的に行っており、2016年は2回実施しました。

今後も継続的に開催することにより、安全運転意識と基本操作の向上、交通ルールの遵守、マナーの向上を目的に、二輪車メーカーの社員として、他のライダーの模範となるような交通安全教育を実施し、交通マナーの向上を指導してまいります。



## 「サンデーSRF※ in 竜洋」オフロード講習会の開催

オフロードモータースポーツの社会的普及の根おこし活動として、スズキのコンペティションモデルDR-Z50、RMシリーズをご購入頂いた、ビギナーからベテランまで幅広いユーザーを対象に、毎年竜洋オフロードコースを利用して、テクニカルスクールを開催しています。

国際A級ライダーをインストラクターに招き、マンツーマンで手ほどきが受けられる充実した内容になっています。

2016年は、8回の開催で297名のお客様に受講していただきました。

これまでも多くのお客様に参加していただき、オフロードでの基本テクニックを習得していただきました。今後も継続して開催していきます。

※SRF(スズキ・ライディング・フォーラム)は、マシンメンテナンス、ライディングテクニックからメンタルトレーニングまで、オフロードテクニックのレベルアップを目指すことで、スズキのコンペティションモデルを安全に正しく扱っていただき、スズキモータースポーツユーザーの育成と、オフロードモータースポーツの普及を目的に活動するクラブ組織です。



## お取引先様とともに

スズキは、「消費者の立場になって価値ある製品を作ろう」を社是の第一に掲げ、社会貢献を目指しています。この「価値ある製品づくり」において、お取引先様と対等な立場で相互に協力し、ともに繁栄できる関係を構築することがスズキの役割と考えています。そのお取引先様は、品質・コスト・納期・技術・危機管理・過去の実績の6つの原則に基づき、公平公正な手続きにより選定されます。また、企業規模及び取引実績の有無、国や地域を問わず、あらゆる企業に対して取引参入機会の門戸を広く開放しています。

### 継続的な取引

スズキは、パートナーであるお取引先様と信頼関係を構築することで、継続的な取引関係の確立を目指しています。このためには、相互のコミュニケーションが最重要と考え、トップからミドルマネジメントクラスの意見交換はもとより、実務担当者クラスの方々とのコミュニケーションの促進を図っています。

### グローバル購買活動

スズキは、世界中の生産拠点と連携し、グローバルな購買活動を加速させていきます。従来、主に各生産拠点ごとで進めてきた活動を、グローバルな最適購買に主軸を移し、世界中から競争力のある価格で部品を購入します。これはスズキにとってのメリットだけではなく、パートナーのお取引先様にとっても「量」を背景とした安定取引や、技術的な蓄積等の様々なメリットが生じ、これらを共有することで、さらなる信頼関係の構築に繋がります。

### 事業継続計画の取り組み

スズキでは、各事業所の耐震補強工事の他、事業継続計画(BCP:Business Continuity Plan)を作成しています。また、地震、津波など大規模災害への備えは、地域社会やお取引先様、お客様への責任であると認識しています。大きな被害が予想される地域のお取引先様に対しては、耐震をはじめとする防災対策を推奨し、万一被災された場合の速やかな復旧のために、お取引先様とともに取り組んでいます。

## 法令遵守・人権尊重・環境保全についての取り組み

スズキでは、各国・地域の法令の遵守(日本では「下請代金支払遅延等防止法(下請法)」の遵守、「自動車産業適正取引ガイドライン」の調達五原則に則った取引の実施など)、人権の尊重、環境保全に取り組んでいます。また、同様にお取引先様に対しても、「お取引先様CSRガイドライン」を策定し、法令の遵守、人権の尊重、環境保全への取り組みを実践するよう求めています。

### ●スズキお取引先様CSRガイドライン

スズキでは事業活動のグローバル展開に伴い、お取引先様を始めとするステークホルダー(利害関係者)の多国籍化、多様化が進んでおり、各国の法令・社会規範に従うことはもとより、文化や歴史に配慮して社会的責任を果たすことへの期待が高まっています。

かかる社会的要請を踏まえて、ビジネスパートナーであるお取引先様と共に果たすべき社会的責任の基本的な考え方、実践すべき事柄を「スズキお取引先様CSRガイドライン」としてまとめました。

お取引先様におかれましては、趣旨ご理解の上、当社と一体のCSR活動の推進にご協力をお願い致します。

<http://www.suzuki.co.jp/about/csr/green/guideline/index.html>



### お取引先様CSRガイドライン(抜粋)

#### 1.安全・品質

- お客様のニーズに応える製品・サービスの提供
- 製品・サービスに関する適切な情報の提供
- 製品・サービスの安全確保
- 製品・サービスの品質確保

#### 3.環境

- 環境マネジメント
- 温室効果ガスの排出削減
- 大気・水・土壌等の環境汚染防止
- 省資源・廃棄物の削減
- 化学物質の管理

#### 2.人権・労働

- 差別撤廃
- 人権尊重
- 児童労働の禁止
- 強制労働の禁止
- 人権侵害などの原因となる紛争鉱物の不使用
- 賃金
- 労働時間
- 従業員との対話・協議
- 安全・健康な労働環境

#### 4.法令の遵守(コンプライアンス)

- 法令の遵守
- 競争法の遵守
- 腐敗の防止
- 反社会的勢力との関係の遮断
- 機密情報の管理・保護
- 輸出取引管理
- 知的財産の保護

#### 5.情報開示

- ステークホルダー(利害関係者)への情報開示

## 従業員とともに

スズキでは、「消費者(お客様)の立場になって価値ある製品を作ろう」の社是のもと、従業員一人ひとりが、自ら考え行動し、お客様の暮らしを豊かにする製品をご提供することを使命に活動しています。

会社は、従業員の雇用の安定を最優先に考え、かつ健全で働きやすい職場づくりのために、労働諸条件の改善に努め、従業員はお互いに協力し合い、「チームスズキ」の精神で、社会貢献できる人財になることを目指し、労使が一致団結して、清新な会社づくりを行っています。

さらに、従業員が「やる気」と「向上心」を持って、大きな未来へ挑戦していく企業風土を醸成するために、以下の項目に重点を置いて制度・環境づくりに取り組んでいます。

従業員が安全・安心かつ  
健康に働ける職場づくり

高い目標に挑戦する人財を  
評価・支援する制度づくり

良好で安定した労使関係づくり

## 安全・衛生及び交通安全に対する取り組み

### 安全・衛生

スズキでは、安全基本理念を掲げて安全衛生管理活動を推進しています。

#### 安全基本理念

●「安全はすべてに優先する。」～Make Safety as first priority.(Safety First)～

企業活動の根幹は「人」である。

その「人」を守る安全には、いかなる時にも、一番の優先順位を与えなければならない。

●「労災はすべて防ぐことができる。」～All accidents are preventable.～

管理者は、「労災は必ず防げる」という強い信念をもって、日々職場をリードしなければならない。

●「安全はみんなの責任である。」～Safety is everyone's responsibility.～

会社がやるべきことを行なうと共に、一人ひとりが、自分の身を自分で守る、責任ある行動をとらなければならない。

みんなが、ルールを守り、注意し合える職場風土を全員でつくろう。

### ●安全衛生管理体制

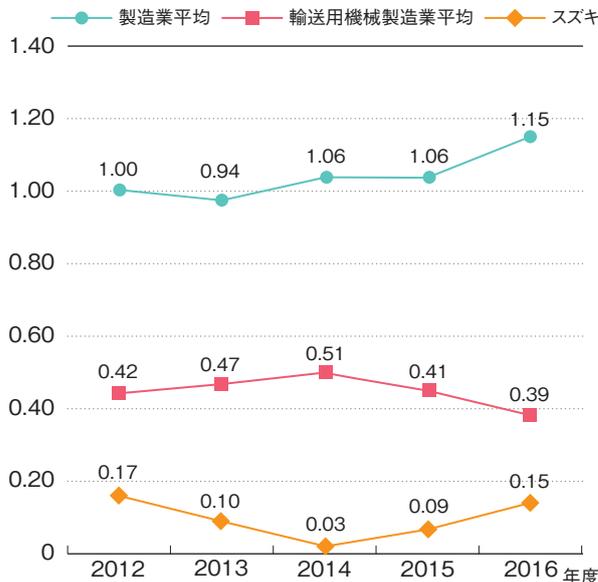
各事業所の代表と労働組合の代表が出席する「中央安全衛生委員会」を年2回開催し、全社の「労働安全」、「労働衛生」、「交通安全」に関する基本方針を決定しています。

また、中央安全衛生委員会による中央安全パトロールを年1回実施し、部門間のクロスチェックによる安全の横串活動により社内の安全意識を高めています。各事業所においては、部門安全衛生委員会を設置しており、中央安全衛生委員会の方針を元に各事業所にて日々、安全衛生活動に取り組んでいます。

### ●リスクアセスメント活動

スズキでは予防を中心とした安全先取り活動として「リスクアセスメント」を実施しています。作業におけるリスクを洗い出し、その対策を進めることで安全性の向上を図っています。2001年よりヒヤリ・ハット事例のリスクアセスメントを導入し、2013年より定常作業のリスクアセスメントに取り組んでいます。

災害度数率の推移



## 健康管理

疾病の早期発見・早期治療を目的に、1995年4月から40歳以上の従業員に対し、人間ドックと歯科検診を義務付けています。更に、受診後のフォローとして、健康教室の開催、栄養指導等も定期的に行っています。

また、近年増加傾向にあるストレスやメンタルヘルス対策として、以下の取り組みを実施しています。

- 改正労働安全衛生法に基づく「ストレスチェック」の実施。
- 従業員が有効なセルフケアを行えるよう、社内イントラネットや講習会を利用した従業員へのメンタルヘルス等の健康情報提供
- 各職場のケア促進を図るため、主に管理職を対象に産業医や保健師・看護師によるメンタルヘルスラインケア講習会を開催
- 従業員が気軽に相談できるよう、社内医務室に精神科医や臨床心理士による「心の相談室」を開設
- 若年層に対しては、入社年次に合わせたメンタルヘルスセルフケア教育を実施
- 新任役職者には、セルフケア教育に加え、ラインケア教育も合わせて実施

## 交通安全

一人ひとりが四輪車・二輪車メーカーの従業員として自覚を持ち、社会の規範となる運転を心掛けるよう、業務上や通勤途上の交通事故のみならず、私用での運転についても交通事故防止を図るため、以下の取り組みを積極的に実施しています。

- 通勤経路ヒヤリマップの作成
- 小グループでの交通ヒヤリ・ハット、危険予知訓練活動
- 公道のみならず構内交通ルールの指導、徹底
- 所轄警察署による交通安全教育
- 運転適性検査による個別指導
- 長期連休前の交通安全呼びかけ
- 同乗や、ドライブレコーダーを使用した運転指導

## キャリアアップのための取り組み

困難な目標への挑戦こそ、自らを成長させる道であり、それこそがスズキのDNAと考えます。めまぐるしく変化する市場環境に対応する為、社員ひとり一人が高い目標を設定し、より高度な専門能力の修得に向け、挑戦していかなければなりません。スズキでは、このような個人のチャレンジ精神をバックアップする充実した人財育成を実施しています。

### 目標チャレンジ制度

業務の遂行にあたり、上司からの業務指示を受けるだけでなく、自らの業務について自主的に目標を設定し、チャレンジすることこそが自己を向上させる道だと考えます。スズキでは、高い目標を掲げ、それにチャレンジする仕組みとして目標チャレンジ制度を導入しています。半期ごとに本人と上司が話し合って今後半年間の目標を立てることで、努力目標が具体的に本人の仕事への意欲向上に繋がることに加え、上司が本人の目標達成度を適切に評価し、本人の能力開発のための指導育成ポイントを的確に把握できるという効果が現われています。

また、スズキの人事制度は、年功序列から脱却した職務重視の人事制度で、スズキの更なる成長を担うプロの人財育成を図るとともに、人事処遇のしほみを仕事、役割、責任と成果に応じた客観性・納得性の高いものとしています。職務重視の人事制度と目標チャレンジ制度が、従業員のキャリアアップをバックアップしています。

### 自己申告制度

年1回、自らの仕事と能力を振り返ることで、自己の強み・弱みを再確認し、能力開発につなげるとともに、将来チャレンジしたい仕事や部門をキャリアプランとして描き、その内容を上司と人事部門に申告する制度です。申告内容は、人財育成と人財の適正配置の基礎資料として、活用しています。

### ローテーション制度

従業員の知識、技術力の向上並びに組織の活性化を目的として、技術職、事務職、営業職の若手従業員については、入社10年間で全員他部門への異動を経験することを目標に掲げ、全社で異動計画を作成し、計画的な人財ローテーションを実施しています。

### 海外研修プログラム

2015年より、グローバル人財の育成を目的に、若手従業員を対象に、海外の関係会社への「2年間の研修ローテーション」と「6ヶ月間の短期海外駐在」を実施しています。

### 語学力向上プログラム

従業員の語学力の向上を目的に、入社から7年目までの若手従業員については、各自がTOEICの目標点数を設定し、受験料は会社負担で、毎年TOEICを受験できる仕組みを導入しています。

また、就業前と終業後に、社内に外部講師を招き、英語・スペイン語・中国語・タイ語・インドネシア語などの語学セミナーを開講するとともに、社外の教育機関が主催する通信教育講座を斡旋し、語学力の向上を支援しています。なお、修了者には費用の一部を会社が助成しています。2016年度は699名が受講しました。

## 安心して働ける快適な職場環境づくり

スズキは、企業活動の担い手である従業員が心身共に充実した状態で意欲と能力を発揮できるための環境づくりに努めています。多様化する働き方に会社として積極的に対応することで、従業員が生き生きと働けるよう、さまざまな支援制度を導入しています。また、快適な職場環境づくりにより、より生産性を高める働き方への意識改革を進めていきます。

### 育児短時間勤務制度

小学校3年生までの子どもを養育する従業員は、本人の申し出により1日の所定労働時間を短縮した勤務が可能となる制度を導入しており、2016年度は179名が利用しました。この制度を利用する従業員は、原則として所定時間外勤務が免除されます。また、専用の社員駐車場を会社構内に設ける事により、就業時間前後の子どもの送迎に対応し易くするよう配慮しています。

幼い子を養育する従業員が多様な働き方を選択できる制度をつくることで、意欲と能力を持った従業員が継続して働ける環境を整えています。職場全体で育児支援への意識を高めるとともに、短時間勤務者を支えることができる「働きやすい職場」づくりを推進していきます。

		2014年	2015年	2016年
育児短時間 利用者数	男	1	2	3
	女	125	160	176
	計	126	162	179
育児休職 利用者数	男	1	2	8
	女	65	72	60
	計	66	74	68
育児休職 復職率	男	100.0%	100.0%	100.0%
	女	98.5%	100.0%	90.0%
	計	98.5%	100.0%	91.2%
介護休職 利用者数	男	1	2	4
	女	2	0	2
	計	3	2	6
介護休職 復職率	男	100.0%	100.0%	25.0%
	女	0.0%	-	100.0%
	計	33.3%	100.0%	50.0%

### 育児・介護休職制度

働く意欲・能力がありながら、育児・介護といった自己(家庭)の都合で就労が困難な場合に対して、様々な休職制度を用意しており、男女を問わず多くの従業員が利用しています(2016年度は74名がこの制度を利用しました)。

産前産後休暇を取得したのち、生まれた子供が1歳になる日(誕生日)の前日まで取得できる育児休職は、その子供が保育園に入所できない等の理由がある場合には、その期間を、6ヶ月延長可能です。

家族の介護等で休業を行う場合は、対象家族一人につき通算365日まで介護休職が取得できます。また、有給休暇とは別に、親や子供の介護をする場合に利用できる傷病・介護休暇制度を、2015年4月より導入しています。

## 再雇用制度

2006年4月の高齢者雇用安定法の改正以前の1991年7月より、スズキは60歳定年後の再雇用制度を導入しています。60歳定年以降も意欲と能力のある従業員への活躍の場を提供しており、各職場でその豊富な経験や専門能力を活かした業務を担当していただいています。

## 相談窓口等

職場内での人事上の問題や安全衛生・メンタルヘルスに関する相談に特化した相談窓口として、「人事部・総務部 相談窓口」を開設しています。さらに、これらの相談窓口に加え、食堂や事務棟等に「改善提案箱」を設置し、より一層、相談・提案が行いやすい風通しの良い職場づくりを目指しています。

また、精神科医・臨床心理士による『心の相談室』も開設しています。

## 少子化対策

ますます進む少子化社会の中で、仕事と育児を両立して頑張っている従業員を積極的に支援しています。

例えば、上記育児短時間勤務制度の導入や、6歳までの子供を対象とした「子育て支援手当」を2015年4月から支給しています。

また、日々の育児においては突発的に対応せざるを得ない事もあることから、1年間に40回まで半日有給休暇を使用できるようにしています。

## 障がい者雇用

人事部内に障がい者雇用の専任担当者を配置し、定期的に個別面談を実施しているほか、職場にも障害者職業生活相談員を置き、障がいを持つ従業員の悩みや問題のケアを行うなど、長く安心して働くことができる環境づくりに取り組んでいます。

### ● 特例子会社「スズキ・サポート」の事業展開

2005年2月に設立した特例子会社「スズキ・サポート」は、事業をスタートして12年目を迎えました。2017年6月末現在で、重度の知的障がい者を含めた障がい者数は49名となり、指導者と一体となってスズキ本社内事務所、従業員寮、関連施設の清掃業務、社内の文房具管理業務及び農園作業に携わっています。

全員が毎日明るく元気に働く姿は、スズキの従業員からも共感と喜びを持って迎えられています。

スズキでは、スズキ・サポート設立の理念である社会貢献の一環として、障がい者の方々が働くことのできる喜びや社会参加によって人間的成長を感じる事ができるよう、今後も積極的に障がい者雇用に取り組んでいきます。

### 【株式会社 スズキ・サポートの概要】

- 1.社 名 株式会社スズキ・サポート
- 2.資 本 金 1千万円
- 3.出 資 者 スズキ株式会社
- 4.所 在 地 静岡県浜松市南区高塚町300
- 5.設 立 2005年2月
- 6.事業内容 清掃業務、農産物の生産業務
- 7.代 表 者 代表取締役 岡部 孝利  
(スズキ(株) 総務部 部長)
- 8.従業員数 82名(うち障がい者49名)



## 女性活躍推進の取り組み

これまで以上に、女性が能力を発揮しやすく、活躍できる会社となるため、女性活躍推進に関する行動計画書を定めました。この行動計画書に沿って女性採用者数の増加、研修の充実、職場環境や両立支援制度の整備に取り組んでいきます。

### スズキ株式会社 行動計画

スズキでは従来より、社員が働きやすい職場づくりとして職場環境の整備を進めてきました。今後更に女性が働きやすい職場づくりを進めるとともに、女性採用者数を増やし、女性社員の活用および活躍を支援していきます。

#### 1. 計画期間

2016年4月1日～2020年3月31日

#### 2. 当社の課題

スズキでは、女性の採用者数および在籍者数が、男性と比較して少ないため『女性社員を増やすこと』が課題です。その対応の第一段階として、女性の採用者数を増やし、将来のリーダーとして人財育成を図ります。

#### 3. 当社の目標

2020年4月度の定期学卒入社者に占める女性比率を25%以上とします。

#### 4. 取り組み内容

1. 女子学生のスズキへの関心を高めるため、採用広報活動を強化します。
  - ・女性社員へのインタビュー記事、動画、スズキの「仕事と家庭の両立支援に関する制度」について紹介する記事を採用HPや入社案内パンフレットへ配信および掲載。
  - ・地元の理系女子中高生を支援するため、理系女子応援プログラムへ参画し、理系女子応援授業や、講演会へ当社女性社員を派遣。
  - ・女性社員による採用支援チームを結成し、会社説明会や採用イベントへ派遣。
  - ・女子学生向けの会社見学会を実施し、女性社員との交流の場を提供。
2. 女性社員の活躍をバックアップする人財育成を強化します。
  - ・入社年次別研修や階層別研修にてキャリアプラン等を相談できる個別人事面談を実施。
  - ・女性係長を対象に次期リーダーとして必要な知識やスキルを身に付けさせるための研修を実施
3. 女性社員が更に活躍できる基盤としての制度を拡充します。
  - ・今後も仕事と家庭の両立支援に関しては、社員の状況によって柔軟に対応してまいります。

## ダイバーシティ(人材の多様性)

スズキでは、女性や高齢者、外国人等様々な人財を、部門を問わず活用しています。多様性の更なる促進のため、役職昇進については男性・女性の区別なく、個々の業績や能力等を考慮した上で決定しています。また、外国人についても日本人と同様の基準にて採用しています。

今後も多様な人財が活躍できるよう、働きやすい環境づくりに取り組んでまいります。

		2014年	2015年	2016年
従業員	男	13,347	13,467	13,603
	女	1,404	1,465	1,535
	計	14,751	14,932	15,138
管理職 (内数)	男	1,216	1,507	1,280
	女	5	7	11
	計	1,221	1,514	1,291
障がい者雇用率		2.09%	2.08%	2.04%
新規採用	男	496	532	674
	女	75	103	120
	計	571	635	794
うち 大卒以上	男	425	412	523
	女	37	60	62
	計	462	472	585
離職率		4.3%	4.1%	3.8%

## 社内教育システム

スズキでは、教育担当部門である「スズキ塾」において、階層別教育をはじめとする全社横断的な教育を行うとともに、技術・生産部門などと連携し、業務遂行上必要となる知識・技術を習得する職能別（専門）教育を実施しており、2016年度はのべ47,000人が受講いたしました。

また、社内教育の実施にあたっては、社是に示された理念に基づき、従業員の職務遂行能力向上と企業を取り巻く環境の変化に対応し得る人材の育成に取り組んでおり、特に階層別教育においては、「若手社員の能力向上」「各階層でのリーダー育成」および「経営層の計画的育成」のための教育を重点的に実施しています。

### ①若手社員の能力向上研修実施

- ・入社2年目～7年目までの若手社員に対して、毎年入社年次別研修を実施

### ②経営層を計画的に育成するための選抜研修

- 若手係長対象研修
  - ・会社の経営課題を議論し、経営トップに上申する「係長リーダー研修」
  - ・英語でのコミュニケーションを主とした「グローバルリーダー研修」
- 管理職対象の選抜研修
  - ・経営者として必要な「リーダーシップ」「組織マネジメント」などを学ぶ「経営幹部研修」



スズキ社内教育体系図

階層	集合教育 (Off-JT)			職場内教育 (OJT)	自主的能力向上		
	階層別教育	職能別教育			自己啓発	小集団活動	
管理職 (部長・課長)	新任部長研修	管理職 マネジメント力 向上研修		OJT	通信教育	語学セミナー	
	経営幹部育成研修						
	ライン部長研修						
	ライン課長研修						
	管理職3年目研修						
	新任管理職研修・新任専門職研修						
係長 組長	係長リーダー研修	係長 マネジメント 基礎研修	社外 研修	専門 研修	通信教育	語学セミナー	
	グローバルリーダー研修						
	ライン係長フォロー研修						
	新任ライン係長研修						
	係長3年目研修						組長3年目研修
	係長2年目研修						
	新任係長研修						新任組長研修
班長	チームリーダーフォロー研修	社外 研修	専門 研修	OJT	通信教育	語学セミナー	
	新任チームリーダー研修						班長3年目研修
							新任班長研修
	入社7年目研修						
	入社6年目研修						中堅社員研修
	入社5年目研修						
	入社4年目研修						
	入社3年目研修						
入社2年目研修							
新入社員	実習(生産・製品)						
	新入社員基礎研修						

## 労使関係

スズキは、スズキ従業員を代表するスズキ労働組合と、「相互信頼」に基づく、良好な労使関係を築いています。労働組合の目的は、従業員の雇用の安定と働く環境(労働条件)の維持改善にあります。この目的を達成するには、会社の安定的な発展が不可欠です。スズキとスズキ労働組合は、企業活動の成果配分としての給与・賞与・労働時間等に関する交渉では、会社と労働組合という立場で議論しながら、会社を安定的に発展させようとする基本的なベクトルを共有しています。

2016年度末時点の組合員数は15,987名で、管理職や労働協約で定めた非組合員を除いた正規従業員の組織率は100%です。

### 従業員とのコミュニケーション

スズキは、労使間においても、研究開発・設計・製造・販売等、スズキにおける全ての業務に従業員の声が反映されるように、話し合いの場(労使協議)を数多く設けています。

労使協議会では、労働組合の要求事項(給与・賞与・労働時間等)について話し合うのは勿論のこと、毎月定期的に、経営方針、生産計画・勤務時間、福利厚生、安全衛生等、様々な内容を議論し、お客様に喜んでいただける商品をお届けするために会社は何をなすべきか、従業員(労働組合)は何をなすべきかについて、真剣に意見交換を行っています。

	開催頻度
中央労使協議会	月1回

### スズキグループの安定した労使関係構築のために

スズキには、国内外136社のグループ企業(製造会社・非製造会社・販売会社)があります。スズキは、136の企業がそれぞれの国・それぞれの地域で、そこに住む人々・社会・お客様から、信頼される企業であり続けたいと考えています。

スズキは、海外企業の労働組合役員と人事労務担当者をスズキに受け入れ、労使間の信頼関係とコミュニケーションの重要性、公平・公正な人事制度の必要性等について研修をしています。また、スズキは、スズキ労働組合とともに、国内外のグループ企業とのグローバルな人材交流を進めることにより、136社約6万3千人の従業員が創造性豊かに生き活きとして働く開闊な職場風土と、安定した労使関係を構築できるよう、取り組んでいます。

#### ● マルチ・スズキ・インド社での取り組み

マルチ・スズキ社では労使協力して会社を発展させるため、話し合いに基づく良好な労使関係の構築に努めています。労働組合と社長、工場長、人事部長ほか管理職とのミーティングを定期的実施するなど、労使間の相互コミュニケーション強化に継続して取り組んでいます。また、会社と従業員との結束を強めるために、従業員の家族による職場見学会、スポーツ大会、ファミリーデーなど、労使一体となった交流イベントを定期的開催しています。

マルチ・スズキ社では、インド国内の法令に沿って、独立した労働組合が各工場に組織されています。労働条件の大幅な改定などの重要事項については、労働組合代表との間で十分な協議を行うこととしています。そうした改定は全ての従業員に直接伝えられ、さらに労働組合の代表を通じても伝えられます。

	開催頻度
社長と部門長とのミーティング	年4回
社長と労働組合とのミーティング	月1回
生産・人事担当役員と 組長・班長とのミーティング	随時
人事部長と従業員(見習含む) との職場ミーティング	週1回



労使ミーティングの様子



従業員の家族による職場見学会(工場見学会)



ファミリーデー

## 株主・投資家の皆様とともに

### 企業価値の向上

スズキグループは、2015年からの5ヵ年における「新中期経営計画SUZUKI NEXT 100」を策定いたしました。スズキグループは、2020年に創立100周年を迎えることから、さらに次の100年も成長し続けるために、「チームスズキ」で、ものづくりの基盤整備と仕事の進め方の総点検をグローバルで行い、経営の土台を盤石なものとする5年間と位置付け、経営基盤の強化に取り組んでまいります。

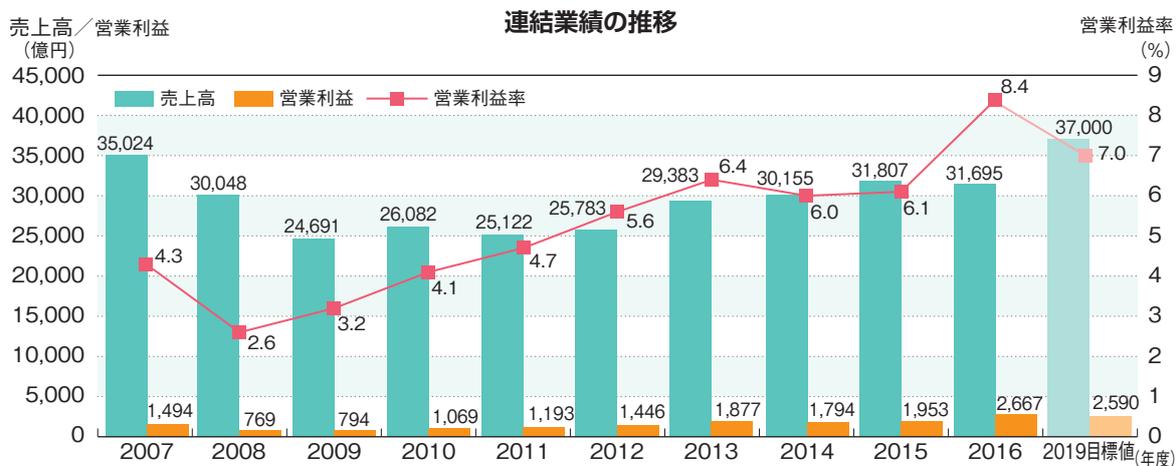
スズキグループは、新中期経営計画のもと、一丸となって企業価値の向上を図るとともに、持続的に成長することを目指してまいります。

中期経営目標としましては、連結売上高は一步一步着実に増加させ、過去最高となった07年度(3兆5,024億円)を早期に上回るよう目指してまいります。成長のための投資と経営基盤の強化とのバランスをとりながら、企業価値の向上に向けた取り組みを着実に進めてまいります。

(中期経営目標値)

	2015年度 実績	2016年度 実績	2019年度 目標
連結売上高	3兆1,807億円	3兆1,695億円	3兆7,000億円
営業利益率	6.1%	8.4%	7.0%
株主還元	ROE	9.6%	15.4%
	配当性向	13.6%	12.1%
研究開発費	1,310億円	1,315億円	2,000億円
(5ヵ年累計設備投資)			(累計1兆円)

※為替レート前提(2019年度)…1米ドル=115円、1ユーロ=125円、1インドピー=1.85円、100インドネシアルピア=0.90円、1タイバーツ=3.50円



### ●東証の「企業価値向上表彰」のファイナリスト(大賞候補会社)に選定

スズキ株式会社は、株式会社東京証券取引所(以下、東証)が主催する「第6回企業価値向上表彰」のファイナリスト(大賞候補会社)の4社に選定されました。

「企業価値向上表彰」は、東証市場に上場する全上場会社(約3,500社)の中から、資本コストをはじめ投資者の視点を意識した企業価値向上経営を実践している会社を表彰するもので、2012年から実施されています。

ファイナリストに選ばれた当社は、資本コストを意識した経営指標(ROE)の活用など、投資者の視点を深く組み込んだ「企業価値向上経営」の実践を通じて、高い企業価値の向上を実現していると認められました。

## 株主・投資家の皆様のために

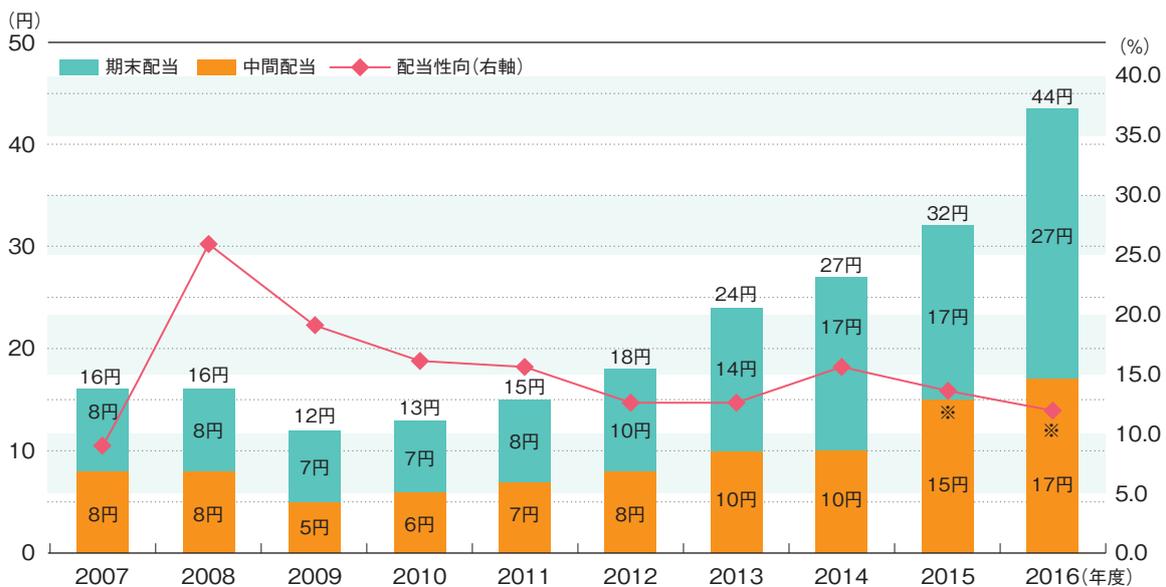
当社グループは、2020年に創立100周年を迎えることから、2015年からの5年間に次の100年も成長し続けるための土台づくりとして経営基盤の強化に取り組んでいます。当面はインドを中心に成長投資を優先し、一方で資本効率と株主還元も経営の重要課題と認識し、株主資本の充実と配当のバランスを考慮しながら対応していく方針です。

新中期経営計画「SUZUKI NEXT 100」では、2019年度の株主還元目標として連結配当性向15%以上を掲げました。

2016年度につきましては、前期と同様に投資有価証券売却益は成長投資と自己資本比率改善に活用させていただき、投資有価証券売却益を除く親会社株主に帰属する当期純利益を基礎として、期末配当金は1株につき前期末より10円増配となる27円とさせていただきます。中間配当金を含めた年間配当金は44円となり、前期より1株につき12円増配、投資有価証券売却益を除く親会社に帰属する当期純利益を基礎とした配当性向は15.2%となります。

なお、スズキの剰余金の配当は、中間配当と期末配当の年2回を基本的な方針としています。スズキは、取締役会の決議によって、毎年9月30日を基準日として中間配当をすることができる旨定款で定めており、配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会です。

一株当たり配当金の推移



\*2015年度、2016年度の配当性向については、投資有価証券売却益を除く当期純利益では15%以上を確保しています。

## 株主優待制度

スズキでは、株主の皆様の日頃のご支援に感謝するとともに、スズキ製品の一層のご愛用を願ひまして、株主優待制度を実施しています。

株主優待制度は、2005年12月に、スズキの世界戦略車「スイフト」がRJCカーオブザイヤー及び2005-2006日本カー・オブ・ザ・イヤー特別賞「Most Fun」をダブル受賞したことを記念し、スズキファン株主の増加促進を目的に新設したものです。

なお、株主数の推移については、次の通りです。



### ●対象株主

毎年3月31日現在で1単元(100株)以上を保有の株主様

### ●優待内容

スズキの欧州生産拠点マジャールスズキ社の所在国ハンガリーの産品である「ハンガリーアカシアはちみつ」と、ドイツ原産の天然のミネラルを豊富にバランスよく含んだ「岩塩」の詰め合わせ



株主優待制度  
(ハンガリーアカシアはちみつと岩塩詰め合わせ)

弊社関連会社スズキビジネスにて、これらの商品の通信販売も致しております。

## IR<sup>\*</sup>に関する取り組み

スズキグループでは、従来より、公正かつ効率的な企業活動を旨として、株主各位をはじめ、お客様、お取引先様、地域社会、従業員等の各ステークホルダーから信頼され、かつ国際社会の中でさらなる貢献をし、持続的に発展していく企業でありたいと考えています。ステークホルダーや社会から一層のご信頼を頂けるよう、法令や規則が定める情報の迅速、正確かつ公平な開示を行うほか、当社をよりご理解頂くために有益と判断する情報の積極的な開示にも努め、企業の透明性をさらに高めてまいります。

### IR資料のホームページ掲載

スズキホームページでは、投資家向け決算説明会資料をはじめ、投資判断に必要な企業情報・資料をIR情報として掲載 (<http://www.suzuki.co.jp/ir/index.html>) しています。

同サイトにて、当社のディスクロージャーの基本的な考え方、適時開示に係る社内体制、株主との建設的な対話等について「ディスクロージャーポリシー」を開示しています。 (<http://www.suzuki.co.jp/ir/home/pdf/disclosurepolicy.pdf>)

\*IR(インバスター・リレーションズ)とは、企業が株主・投資家の皆様に対し、投資判断に必要な企業情報を、適時、公平、継続して提供する活動のことをいいます。

## アナリスト、機関投資家向けに定期的説明会を開催

四半期毎に、決算アナリスト説明会を開催しています。なお、株主・投資家の皆様にその内容をお聴きいただけるよう、音声ファイル及び説明会における主な質疑応答内容をホームページに掲載しています。

その他にも、インベスターズ・カンファレンス等の説明会の実施、国内外でのIRミーティングの開催、新車発表会へのアナリストの招聘、アナリスト向け工場見学会、技術説明会等も随時、実施しています。

## IRに関する部署の設置

IRに関する部署については、経営企画室に、本社でのIR窓口として経営管理・IR部、及び東京でのIR窓口として東京IR課を設置しています。また、決算短信等の開示資料作成部門として財務本部に財務部経理課を設置しています。

## 海外投資家向けIR

海外投資家向けに以下のIR活動を実施しています。

- 海外投資家向けIR情報のホームページへの掲載

国内投資家向けに開示している決算短信、投資家向け説明会用プレゼンテーション資料、株主総会招集通知、株主総会決議通知、東証適時開示文、IRニュースなど、日本語IRページと同等の情報を英語にて掲載 (<http://www.globalsuzuki.com/ir/index.html>) しています。

- 国内で開催される海外投資家向けIRカンファレンス等への参加

- 海外でのIRの実施

欧州、北米等、海外での機関投資家向けIR説明会、もしくは個別ミーティングを、適宜、実施しています。

- 「東証英文資料配信サービス」での決算短信及び適時開示の英文提供

## 個人向けのIRイベントの実施

証券会社と共同で、担当役員もしくはIR担当者による個人投資家向け説明会を定期的を開催しています。その他、証券会社の営業社員向け説明会についても随時、実施しています。

また、2008年6月に開催した第142回定時株主総会より、総会終了後にご出席頂いた株主様を対象に、よりスズキのことをご理解して頂くため、『スズキ歴史館』の見学会を開催しています。『スズキ歴史館』は「スズキのものづくり」をテーマに、スズキの歴史や現在の世界への事業展開の紹介、また、自動車ができるまでの工程をわかりやすく展示する施設で、2009年4月から一般公開しています。



スズキ歴史館外観



スズキ歴史館見学会

## 地域社会とともに

### 環境美化への取り組み

#### はまなこ環境ネットワークへの参加・協力

スズキは、社員とその家族の環境教育の一環として、2005年の「はまなこ環境ネットワーク」設立以来、ネットワークへの積極的な参加・協力を行っています。

「はまなこ環境ネットワーク」は静岡県環境局の委託を受け、浜名湖の環境保全に関する教育プログラムの実施やアマモ・アオサの再利用プロジェクト、地域環境の情報発信などの活動を活発に続けています。2017年3月には、市民グループや学校、NPO法人、各種事業団体や企業など72団体が登録している浜名湖の環境保全に関わる「集まりの場」となっています。

2016年度は、子供たちを対象にした環境学習「浜名湖エコキッズ体験塾」や自然のアマモ堆肥を使った「野菜づくり体験」にスズキ社員とその家族が延べ76参加しました。

今後も、ひとりでも多くの人々が座学や観察・清掃・農作業などの体験を通して、地元の貴重な財産である汽水湖「浜名湖」の豊かな自然を認識いただけるように、スズキは環境保全活動に参加・協力していきます。

#### ●「浜名湖エコキッズ体験塾2016in村櫛」(2016年7月16日)

村櫛海水浴場にて ●湖岸のアマモ回収作業 ●浅瀬の生き物とアマモ場観察



#### ●村櫛沖の浅瀬



●「浜名湖エコキッズ体験塾2016in湖西」(2016年7月30日)

おちばの里親水公園にて ●里山や川の生き物観察 ●自然素材の工作体験 ●里山へ



●上流



●中流



●「アマモを堆肥にした野菜づくり体験」(2016年9月25日)

村檜町NPO法人むらちゃネットさんの畑にて ●畑づくりと野菜の種まき作業



●「アマモを堆肥にした野菜づくり体験」(2016年12月17日)

村檜町NPO法人むらちゃネットさんの畑にて ●大根の収穫作業



## 地域社会への支援活動

2016年度、スズキグループでは地域社会に対して下記の支援をいたしました。

日本	スズキ	熊本地震に対する支援	熊本地震の被災地域への支援として、日本赤十字社を通じて300万円の義援金を寄付
		地元自治体に対する震災対策事業支援	地元自治体(掛川市、磐田市、牧之原市、掛川市)の地震津波対策事業へ合計4,000万円を寄付
インド	マルチスズキ	水道整備・公衆衛生	10kmに渡る下水道の設置、及び舗装道路の修繕、8名の清掃員の派遣、1,100戸への家庭用トイレ設置、公共水飲み施設の設置など
		政府系学校のインフラ整備支援	男女別トイレの設置、教室の新設、建物や飲料施設等の修繕、内装・電機設備の設置、緑化活動、什器の供給、奨学金の提供など
		地方支援	コミュニティーホールの設置、火葬場の修繕、舗装道路の建設など
パキスタン	バックスズキ	病院の病棟拡張支援	カラチ市内の火傷専用病院の診療病棟の拡張支援として約400万円を寄付
		公立小学校の改修支援	近隣の公立小学校の校舎・施設の改修等のため約180万円を支援

## 教育支援活動

### 地元の学生にスズキのものづくりを紹介

地元の大学へ、スズキから講師を派遣し、人材の育成及び研究の活性化等を行う「スズキ寄附講座」や学生に産業界の現状を紹介する「スズキ冠講座」を開講しています。

#### ●寄附講座

スズキは、静岡大学(工学部)において、2003年度から、研究者育成及び学術振興・社会貢献等を目的として、自動車の様々な要素技術研究に取り組む寄附講座を開講しています。

講座名称を「先進車両エネルギー工学」として、環境性能の高い先進車両の実現を目指した研究に取り組んでいます。

研究室では、「ものづくり」と「実験」、「解析」の一貫した研究を行っています。

また、機械系学生3年生を対象とした「自動車工学」では、実際の自動車部品を見ながら、その部品の機能や材料、製造方法、最新技術についても紹介するなど、企業ならではの教育を展開しています。

新講座名称：「先進車両エネルギー工学」スズキ寄附講座

研究テーマ：①通電加熱を用いた異種金属の固相接合に関する研究

②リーンNOx触媒の性能向上に関する研究

講師：スズキから社員2名を特任教官として派遣

期間：2003年4月～2018年3月末までの15年間



#### ●冠講座

静岡産業大学(磐田キャンパス)・常葉大学(浜松キャンパス)の2校において、学生に産業界の現状や問題への取り組み方を紹介する冠講座を開講しています。

・2016年度講座テーマ：「次の100年に向かう土台作りのため、「チームスズキ」と「ものづくりの強化」を目指すスズキの取り組み

・講師：テーマに応じ、各職場から大学に派遣

・講義回数：1回90分授業を毎年15回で1講座としています

## 学生フォーミュラ大会

公益社団法人自動車技術会が主催する「第14回全日本学生フォーミュラ大会」が2016年9月6日～10日にかけて静岡県小笠山総合運動公園（エコパ）で開催されました。

学生フォーミュラ大会は学生が設計製作した車両により、ものづくりの総合力を競い合うもので、産学官民連携による自動車技術ならびに産業の発展・振興に資する人材の育成を趣旨として開催されています。

自動車技術会に所属するスズキも大会運営への協力や参加チーム支援を行っており、昨年の大会では国内71チーム、海外21チームの計92チーム中、スズキが支援する京都工芸繊維大学がガソリンエンジン車クラス（ICV）で総合優勝しました。



## キッズエンジニア

公益社団法人自動車技術会が主催する体験型イベント「キッズエンジニア」が2016年8月5日、6日に開催されました。キッズエンジニアは、小学生を対象に様々な分野の科学技術やものづくりに興味を持ってもらう体験型イベントです。

スズキではスクーター・チョイノリのエンジンを自分で分解・組立しながらエンジンについて学ぶ活動を行いました。

子供たちがモノづくりの楽しさを知るとともに、自動車産業が発展することを願っています。



## ものづくり講座

国内外の大学や地域企業向けに、スズキ歴史館や工場見学を通じて「輸送機器のものづくり講座」を行っています。2016年度は右記の通り実施しました。



	開催日	大学、講座名	参加人数
2016年	4月7日	豊橋技術科学大学（湖西工場）	150
	6月3日	浜松地域イノベーション推進機構 中核人材育成講座	29
	7月7日	名古屋大学サマープログラム （海外大学生による勉強会）	54
	7月19日	浜松地域イノベーション推進機構 中核人材育成講座（相良工場）	29
	9月17日	静岡大学アジアブリッジプログラム （海外大学生による企業体験）	6
	11月10日	インドネシア ガジャマダ大学	15
	11月17日	精密工学会主催国際会議 ICPE2016 オプションルツアー	25
	12月9日	山梨大学	10
2017年	1月24日	静岡大学博士キャリアフォーラム	40
	2月23日	カナダ オンタリオ工科大学	13
		合計	371

## スポーツによる地域活性化まんが事例集の制作に協力

スズキは、将来の地域を担う人材を育成するというスポーツ庁の趣旨に賛同し、「スポーツによる地域活性化まんが事例集」の制作に協力しています。制作されたまんが事例集は、全12巻1セットで約2万部が全国の中学校、高等学校等の図書室に寄贈されました。

今後も地域の若者のスポーツ活動を支援し、地域の活性化及び地域の発展を担う人材の育成に協力してまいります。



## 陸上教室

スズキ浜松アスリートクラブでは、山本選手(義足)を中心に右代啓祐選手(男子10種競技)、海老原有希選手(女子やり投げ)、新井涼平選手(男子やり投げ)など国内外で活躍する日本トップレベルの選手が、陸上競技の普及・児童の体力向上を目的に様々な地域で陸上教室や講演会を自身の経験を踏まえ伝えています。

今後もスズキ浜松アスリートクラブでは陸上競技の楽しさや、スポーツを通して得られる感動を子供たちに伝える活動を続けてまいります。



## スズキ歴史館 [\(https://www.suzuki-rekishikan.jp/\)](https://www.suzuki-rekishikan.jp/)

スズキは、1909(明治42)年に創業、1920(大正9)年に織機メーカーとして設立して以来、「価値ある製品を」の言葉のもとに、常にお客様の立場に立った“ものづくり”に情熱を注いできました。世界各国で生産・販売する今日でも、“ものづくり”にかける情熱は変わりません。

スズキ歴史館は、2009年4月に開館したスズキの“歴史”や“ものづくり”を紹介する展示施設です。織機・二輪車・四輪車・船外機など、時代とともに歩んできた創業以来の多くの製品と、現在のクルマづくりの様子が展示されています。

2017年4月23日には、開館から8年で累計来館者数が50万人を達成しました。今後もさらに多くの方々にご来館頂けるよう、展示内容やイベントの充実を図ってまいります。



スズキ歴史館



## スズキ歴史館の施設ご紹介

### スズキの歴史フロア

1909年の織機から始まるスズキの歴史、二輪分野に進出した1952年発売のバイクモーター「パワーフリー号」、量産型軽自動車として日本初となる1955年発売の「スズライト」、1970年発売の「初代ジムニー」(LJ10型)、1979年に47万円で発売された「初代アルト」など、懐かしいクルマを趣向をこらした演出で見ることができます。



創業当時の織機



パワーフリー号



スズライト



初代アルト

## スズキのものづくりフロア

現在のクルマづくりをテーマに、新しいクルマが誕生するまでの企画・開発から生産・販売までの過程を、順を追って展示しています。

スズキのクルマが工場でどのようにつくられていくかを迫力のある3Dシアター「ファクトリーアドベンチャー」で見ることができます。さらに、実物大の組立ラインの展示もあり、クルマの製造現場を疑似体験できます。

工場で活躍するロボット、スズキの海外でのものづくりを紹介する映画「ワールドアドベンチャー」、地元・遠州地方を紹介するコーナーなど、多彩な仕掛けで、マニアだけでなくクルマに興味を持ち出す年頃の子供たちにとっても楽しめる施設となっています。



デザインルーム



クレイモデル



3Dシアター ファクトリーアドベンチャー



組立ライン



ワールドアドベンチャー

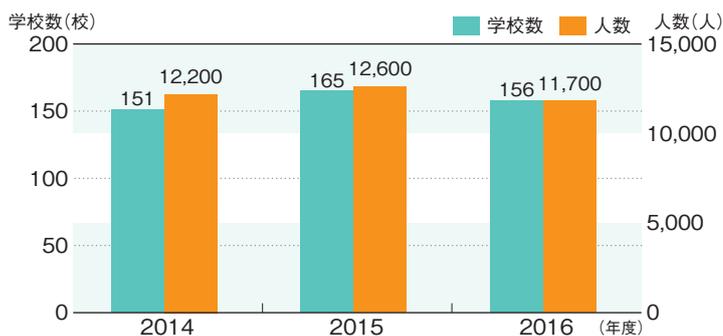


遠州コーナー

## 社会科見学

スズキ歴史館は、自動車産業についての理解を深める小学校の校外学習の場として、多くの小学校にご活用いただいています。実際のスズキの生産現場を見学する「工場見学」と、クルマを生産する前の開発プロセスを紹介するスズキ歴史館を併せて見学することで、クルマができる工程を詳しく学習することができるようになりました。

### 社会科見学の推移



社会科見学の様子

## ものづくりイベント

地域社会との交流の場として、“ものづくり”に対する興味を持ってもらうために子供向けイベントを実施しています。スズキの“歴史”や“ものづくり”にちなんだ体験学習を内容とし、子供たちには教科書での勉強とは違ったかたちで楽しんでいただいています。



様々なものづくりイベント

スズキ歴史館では、子供たちの“ものづくり”に対する興味を育むためにこれからも継続してこのようなイベントを開催していきたいと考えています。また、多くの小学校の社会科見学を受け入れることで子供たちに自動車産業について知識を深めてもらいたいと考えています。そして、地域の皆様から喜ばれる施設となるよう努力を続けていきます。

## 国内工場・技術センターの取り組み

### 湖西工場の取り組み

#### ●小学生の湖西工場見学会

2016年度、社会科校外学習の一環として、静岡県下134校(小学5年生対象)、延べ10,200人の児童を、湖西工場見学会として受け入れをいたしました。

この見学会では、「スズキの車が出来るまで」のビデオを放映し、組立工場と風力発電設備等を見学していただき、流れ作業の仕組みや環境に配慮したクルマ作りを紹介しました。



#### ●工場秋祭りの開催

従業員とその家族及び地域住民の方々と親睦を図るために、2016年10月1日に秋祭りを開催しました。約3,400の方が参加し大いに盛り上がりました。

地域の皆様にも、自治会の手踊りや中学校の音楽部演奏会等で参加していただきました。

この他に各種模擬店、キャラクターショー、舞台からの餅投等を行い楽しい秋祭りになりました。



#### ●地元自治会との交流会

情報交換することにより、地元の皆様との間により深い相互理解が得られるものと考え、年1回、地元自治会との交流会(湖西工場見学会)を開催しました。この交流会では、湖西工場の概要の説明を行ない、生産ラインの他、焼却施設を見学していただきました。



#### ●湖西工場周辺道路の5S活動

環境保全活動の一環として、スズキは構内協力企業の皆様とともに、年3回、延べ150人で周辺道路の清掃活動を行いました。また、環境意識の向上を図るため、従業員や納入業者に対して「ポイ捨て禁止」の呼び掛け等も行いました。



#### ●湖西工場関係輸送業者への協力依頼

湖西工場へ出入りする輸送業者の皆様へ、当工場の環境方針や環境保全活動を理解していただき、「道路へのポイ捨て禁止」、「中央幹線道路の利用促進」等の協力をお願いしています。



#### ●湖西工場周辺地区の街頭指導

従業員の通勤路や工場周辺交差点において、シートベルトの着用、交差点における運転マナーの向上や交通事故防止を目的として街頭指導を行っています。

2016年度は延べ600人の従業員が街頭で行い、安全で安心な街づくりに協力しました。



#### ●浜名湖クリーン作戦への参加

「浜名湖の水をきれいにする会」主催の浜名湖クリーン作戦で白須賀海岸の清掃活動に参加しました。

2016年度は、労働組合湖西支部を通じて約60人が取り組みました。



## 磐田工場の取り組み

### ●工場周辺の清掃活動

工場周辺の環境美化を目的として、月に1回、構内協力企業の皆様と共に工場周辺のゴミ拾い活動「クリーン作戦」を実施しています。

また、全市一斉「環境美化の日」に、地元自治会の皆様と一緒に地域美化活動に参加し、工場周辺の環境保全に取り組んでいます。



### ●工場見学受け入れ

主に地元学校の社会科校外学習の一環として、工場見学の受け入れを行っています。2016年度は16校391名が工場見学に訪れました。工場内の溶接工程や組立工程の生産現場見学及び工場概要説明会等を通じて、仕事の様子、安全や生産面で工夫している点、生産の流れ等を学習する実践的な場として活用されています。



### ●地元の皆様との交流会活動

「地域と共に発展する」を目指し、スズキの環境への取り組み等に関して、地域の方々との相互コミュニケーションを図る情報交換会を毎年実施しています。

地元自治会役員及び有志の方々を招き、工場見学を行い、スズキの事業内容や環境への取り組み等について幅広く意見交換を行っています。

また、3ヶ月に1回、磐田工場の環境対策の状況を地元自治会に公表し、相互理解を深めています。



### ●交通安全街頭指導の実施

従業員の交通安全に関する意識向上、交通ルール遵守、交通マナー向上のため、工場周辺で社内交通安全部会員による街頭指導を定期的に行っています。



### ●工場秋祭りの開催

従業員やその家族、地域住民の方々との親睦を図るため、2016年10月15日に秋祭りを開催し、約2,100人の方にご来場いただきました。

地元自治会の皆様による御殿屋台引き回しを始め、銭太鼓演奏や子供神楽披露、磐田市イメージキャラクター「しっぺい」の来場、各種模擬店、もち投げ大会等により、大いに盛り上がりました。



### ●地下水かん養事業への参加

植樹や間伐による森林保全活動を目的として、毎年開催される、中遠地域地下水利用対策協議会と磐田市環境保全協議会共催の地下水かん養事業に参加しています。

他企業の方々と共に植樹や間伐による森林保全活動に取り組んでいます。



## 相良工場の取り組み

### ●工場周辺の清掃活動

地域環境維持活動として年3回、関係会社の皆様と共に、工場周辺の清掃を実施しています。平成28年度(2016年度)は104名が参加しました。

また、従業員への環境教育や、取引先への協力依頼を実施し、環境保全活動を推進しています。



### ●地元の皆様との交流活動

毎年2月にスズキの事業内容や環境への取り組み等に関して、地元の皆様との相互コミュニケーションを図る情報交換会を実施しております。

平成28年度(2016年度)は2017年2月に実施し、地元の代表者、牧之原市担当者など12名の方々にご参加いただきました。



### ●工場秋祭りの開催

従業員やその家族、地域の住民の方々との親睦を図るため、2016年10月29日に秋祭りを開催しました。約3,400人の方々にご来場頂き、地元中学生の演奏会や地元商工会による軽トラ市、工場見学会、模擬店、キャラクターショー、子供ビンゴ大会等で大いに盛り上がりしました。



## 高塚工場の取り組み

### ●地元の皆様との交流活動

2016年7月6日、スズキの事業内容や環境への取組みについて理解していただくとともに相互のコミュニケーションアップを目指して、近隣自治会役員の皆様と交流会(意見交換・工場見学)を行いました。



### ●工場周辺の清掃活動

年2回、従業員のボランティアにより工場周辺の清掃活動(高塚工場マナーアップ活動)を行いました。

この活動では、近隣住民の皆様と挨拶を交わす等、コミュニケーションの向上も図れました。



### ●工場西側の騒音監視活動

工場の騒音状況を確認する為、2016年度に4回、工場西側地域において監視活動(「早朝・夜間パトロール」)を行いました。

6:00~7:00の騒音規制値:65dB以下に対し、40.8~58.2dB

22:00~23:00の騒音規制値:60dB以下に対し、45.5~55.8dB

計測器による騒音の確認と併せて、聴覚による騒音の確認を行い、いずれも問題の無いことを確認しました。この活動により、近隣住民の皆様との騒音に関する生活環境保全に努めています。



### ●交通安全街頭指導の実施

月1回、管理職による工場周辺の街頭指導を実施しています。従業員の運転マナーの向上と交通事故の防止を目的として通勤時及び退勤時の呼びかけを行っています。



## 豊川工場の取り組み

### ●「豊川市清掃の日」の環境活動協力

5月と9月の豊川市清掃の日に合わせ、市の環境活動に協力しています。  
約30名が参加し、工場外周のゴミ拾い等の清掃活動に取り組んでいます。



### ●地域交流会

工場に隣接する2町内会の代表者を工場へ招き、交流会を6月に開催しました。

工場概要・環境への取り組みについての説明、組立ライン、排水処理場の現場見学を行い、日頃の取り組みについてご意見を伺いました。



### ●交通安全街頭指導への参加

役職者が定期的に工場周辺の交差点で街頭指導を実施しています。従業員の運転をチェックし、指摘事項があれば、従業員へ指導します。

全国交通安全県民運動では、交通安全協会の街頭指導に参加しています。

### ●地域の学校の職業体験、工場見学受け入れ

郊外学習として、職業体験と工場見学を依頼に応じて実施しています。

2016年度は、高校1件の職業体験を実施しました。

### ●工場秋祭りの開催

従業員、家族、地域の方々との親睦を図る為、工場内を会場として9月に秋祭りを開催し、約1,300人の来場者がありました。

地元高校ダンス部、地元和太鼓クラブによるステージ、子供に人気のキャラクターショーで盛り上がりました。

従業員による模擬店、抽選会、餅投げも大変好評でした。



## 大須賀工場の取り組み

### ●工場敷地外の清掃活動

年2回、工場敷地外の道路・河川等の清掃活動を行っています。  
2017年度も、地域の皆様と共に、環境保全活動に取り組んでいきます。



### ●地元神社大祭終了後の清掃奉仕活動

毎年4月に、三熊野神社大祭終了後、神社周辺の清掃活動を実施しています。  
今年も、新入社員を中心に、神社周辺の清掃活動を行いました。  
地域に根付いた恒例行事として、今後も継続していきます。



### ●地元の皆様との交流活動（自治会懇談会）

毎年1回、近隣自治会の皆様を工場に招いて、工場見学及び、懇談会を行っています。  
2016年度は、6自治会の皆様にご出席頂き、11月3日に開催しました。  
懇談会においては、工場の環境に関する取組み、清掃活動等の報告を行い、コミュニケーション作り、及び情報交換をしました。



### ●地元の皆様との交流活動（秋祭り実施）

9月24日に、地元の皆様との親睦を深める秋祭りを開催しました。  
当日は、1,800名の来場がありました。

〈地元の皆様の出演〉

- ・小・中学校生で編成された、いきわくジュニアブラスバンドクラブ、いきわく吹奏楽部の演奏
- ・横須賀高校郷土芸能部による「三社祭礼囃子」披露



### ●交通安全への取組み

毎月、10日、20日、30日に、工場正門前で立哨指導を行い、運転マナー向上・交通事故防止活動をしています。

又、年4回の交通安全運動期間中では、地元の皆様と一緒に街頭指導に参加し交通安全の呼びかけをしています。



## 二輪技術センター(竜洋コース)の取り組み

### ●スポーツ競技大会への二輪技術センター(竜洋コース)の開放

2016年度、地域のスポーツ団体の要望により、スズキ二輪技術センター(竜洋コース)を下記のように開放しました。

- ①サンライズ イワタ IN 竜洋大会(トライアスロン競技)
- ②静岡県ふじのくにカップ(自転車競技)
- ③磐田市駅伝競走会

社会人から小・中学生まで、幅広く竜洋コースを開放し、地域スポーツ団体や青少年の健全育成活動に貢献しています。



①2016/9サンライズ イワタ IN  
竜洋大会(トライアスロン競技)



②2017/3静岡県ふじのくにカップ  
(自転車競技)

## 船外機技術センターの取り組み

### ●船外機技術センター周辺の交通安全街頭指導

船外機技術センターでは春、秋の全国交通安全運動と夏、年末の交通安全県民運動期間の稼働日の朝、センター入り口と近くの交差点で街頭指導を行っています。2016年で8年目になるこの活動は従業員と近隣の皆様の交通安全と交通安全意識の向上を願い、行っています。



街頭指導

### ●船外機技術センターマナーアップ活動

船外機技術センターでは「船外機技術センターマナーアップ活動」として地域への貢献及びボランティア・環境美化を目的とし、船外機技術センター周辺のゴミ拾いを実施しています。



マナーアップ活動

## 国内販売代理店の取り組み

スズキグループ企業は、お客様や地域社会との信頼を大切に、長くお付き合いをさせていただきたいと考えています。商品・サービスの情報提供をはじめ、福祉支援、イベントへの参加や協力等を行い、コミュニケーション活動を進めています。また、提供する商品やサービスについてお客様に満足していただくため、従業員の教育にも努めています。

### 取り組み事例紹介の国内販売会社



#### (株)スズキ自販北海道 <http://sj-hokkaido.jp/>

##### ●整備工場の環境貢献

当社は地域の環境保全に積極的に取り組んでいます。このたび江別営業所が、永年にわたり北海道の自動車関係事業の振興・発展に寄与した事業所として、北海道運輸局長より「環境に優しい自動車整備事業場等表彰」を受賞しました。



#### (株)スズキ自販岩手 <http://suzuki-iwate.jp/>

##### ●技術専門学校に新型ワゴンRを寄贈

岩手県立宮古高等技術専門学校に、自動車整備の実習車として新型ワゴンRを寄贈しました。自動車整備士育成のため、最新機能を搭載した車両で実践的な整備技術が習得できるよう応援しています。



(株)スズキ自販宮城 <http://sj-miyagi.jp/>

●整備士のための職場環境づくり

質の高いサービス・メンテナンスをお客様に提供するためには、優秀な整備士が能力を存分に発揮できる職場環境づくりが欠かせません。宮城県立の高等技術専門学校（整備士）出身者の企業定着率が高いことから、当社は宮城県職業能力開発協会から感謝状を頂きました。



(株)スズキ自販東海 <http://sj-tokai.jp/>

●交通安全運動の実施

毎月10日と20日の営業日の朝、本社社員がプラカードを持って会社の前を通る国道1号線の沿道に立ち、通行する皆様に交通安全を呼びかける活動を行っています。



(株)スズキ自販長野 <http://sj-nagano.jp/>

(株)スズキ自販南信 <http://sj-nanshin.jp/>

●「きれいな信州環境美化活動」への参加

美しい信州を守るため、長野県内の地域住民、市民団体、企業などが期間を統一して身近な環境美化活動に取り組む「きれいな信州環境美化活動」に参加しました。春(5月)と秋(10月)の全2回に参加し、拠点周辺の清掃活動を実施しました。



ながのけんりサイクルキャラクター“クルルん”

(株)スズキ自販京都 <http://sj-kyoto.jp/>

●最寄りの駅周辺を清掃

スズキ自販京都本社の最寄駅であるJR京都線桂川駅の周辺の清掃活動を、毎週木曜日に行っています。地域社会の一員として、環境美化の取り組みを積極的に行っています。



(株)スズキ自販近畿 <http://sj-kinki.jp/>

●地域交通安全イベントへの参加

2016年9月、大阪府交通対策協議会が主催する「2016おおさか交通安全ファミリーフェスティバル」に電動車いす安全普及協会の一員として参加協力しました。電動車いすの体験試乗や安全運転講習会を実施し、安全運転の啓発に努めました。



●防火・防災の取り組み

当社は日頃から事業所における火災予防活動に積極的に取り組んでいます。2017年3月、東大阪営業所が東大阪市消防局より2016年度の「優良防火管理者表彰」をいただきました。



(株)スズキ自販和歌山 <http://sj-wakayama.jp/>

●障がい者インターンシップの受け入れ

地域の障がいを持つ方々の就業を支援するため、自動車販売会社の仕事を体験して頂くインターンシップを実施しています。2016年度は7名の障がい者にご参加いただき、商品の洗車や部品の出庫作業などを体験していただきました。



(株)スズキ自販佐賀 <http://sj-saga.jp/>

●海浜の清掃活動

地域貢献・環境美化の活動として、特別名勝にも指定され日本三大松原のひとつである唐津湾の「虹の松原」の清掃活動を定期的に行っています。2016年6月と2017年2月の2回、清掃活動を実施しました。



(株)スズキマリン <http://www.suzukimarine.co.jp/>

●合同水難救助訓練への協力

2016年6月17日、浜松市消防局、細江警察署、静岡県マリーナ協会、浜名湖総合環境財団などが参加した合同水難救助訓練が行われました。スズキマリーナ浜名湖が所属する静岡県マリーナ協会西部支部からも3艇のボートが訓練に参加しました。

更に6月24日には、湖西市消防本部、湖西警察署、公益財団法人浜名湖環境財団、静岡県マリーナ協会の4つの機関が参加した合同水難救助訓練が行われました。レスキュー艇を提供するとともに落水者の救助等に努めました。



●「マリンウィーク(ボート試乗会)」の実施

2016年8月4日、浜名湖近隣の子供会のお子様を対象にボート試乗会を実施しました。乗船の際の基礎知識とロープワークを学習した後、実際にボートに乗船し、海や船について興味を持っていただきました。



## 海外グループ会社の取り組み

### インド マルチ・スズキ・インディア社

マルチ・スズキ社はCSR(社会的責任)活動を通じて、社会貢献を果たして参ります。マルチ・スズキ社は地元住人及び地域社会も重要なステークホルダーと考え、地元住人の方々の福祉や生活の質の向上を図るべく、活動に取り組んでおります。マルチ・スズキ社では、地域支援、職業訓練、交通安全の3つの分野において、CSR活動を行っております。

マルチ・スズキ社は2014年1月にCSR委員会を設置し、CSR活動方針を策定致しました。2016年度にはCSR委員会が2度開催され、CSR活動の実施状況確認、年次報告書の承認、及び活動に対する指示を行いました。

CSR委員会による活動内容の確認に加え、全てのCSR活動が毎月企業レベルで見直されています。さらに、法律および社内CSR活動方針に沿って、全てのCSR活動に対して、社内及び外部法定監査が行われています。

2015年度には、“マルチ・スズキ財団”が設立され、2016年度に運営が開始されました。マルチ・スズキ社は全てのCSR活動を、同機関を通して行う予定です。

マルチ・スズキ社のCSR活動への支出額は年々増加しており、2016年度には前年比14%増の8億9,450万ルピー(約14億7,600万円)に達しました。マルチ・スズキ社は過去3年間の純利益平均の2%を超える金額をCSR活動に充てています。

### 地域支援

地域社会はマルチ・スズキ社にとって重要なステークホルダーであり、CSR活動を通じハリヤナ州グルガオン、マネサル及びロータック、並びにグジャラート州ハンサルプール周辺の地域社会24市町村への貢献を行っています。

#### ●水道及び公衆衛生

地域住民との協議を通じ、マルチ・スズキ社は飲料水の確保、トイレの改善やごみ処理などの活動を行っています。2016年度の主な活動は以下の通りです。

- ・10Kmに渡る下水道の設置、及び舗装道路の修繕
- ・8名の清掃員を派遣
- ・1,100戸への家庭用トイレ設置
- ・公共水飲み施設の設置



#### ●教育

マルチ・スズキ社は地域社会及び政府の教育省と協力し、政府系学校のインフラ整備を支援しています。具体例としては男女別トイレの設置、教室の新設、ドア、窓、塀、飲料施設等建物の修繕、内装及び電機設備の設置、緑化活動及び什器の供給が挙げられます。こうした学校施設の設備援助はマネサル、グルガオン、及びロータックにおいて25,000人以上の生徒が対象となっています。2016年度の主な教育関連活動は以下の通りとなります。

- ・179名の優秀な生徒に対し、高等教育を受ける為の奨学金を提供。
- ・生徒728名に成績優秀賞を贈呈。



#### ●地方支援

村部の社会的繋がりを強化する為、2016年度に行った主な地方支援活動は以下の通りとなります。

- ・コミュニティホールの設置
- ・火葬場の修繕
- ・舗装道路の建設

## 職業訓練

マルチ・スズキ社は、若年層の雇用適正を高め、企業への人材供給が可能となる様、職業訓練校(ITI)と緊密に連携して、以下の活動を行っています。

### ●公立職業・技術訓練校の質の向上

マルチ・スズキ社は訓練の質の向上を目指し、訓練施設の改善、生徒及び講師を含む全体的な技術力の向上、生徒及び講師に向けた職業体験、政府系ITI向けに産業指向の特別コースの提供を行っています。



### ●自動車産業における技能向上への取り組み

整備や板金塗装のような自動車業界に関連する技術を養成するコースを設立するため、マルチ・スズキ社はディーラーと共にインド全国に渡って複数のITIと技術提携を始めています。プロジェクトを通して、マルチ・スズキ社は研修施設の更新や、講師の育成、教材の提供、授業などを実施しています。ITIを卒業した生徒は、ディーラーのサービス工場へ就職します。

現在、自動車産業発展のため、27の州で141のITIと提携しています。この取組みの下、延べ17,500人以上の生徒が訓練を受けました。直近2年間では、3,300人以上の生徒がITI卒業後、マルチ・スズキディーラーのサービス工場に就職しており、また他社のサービス工場へも相当数の卒業生を輩出しています。

マルチ・スズキ社は一部のITIに自動車技能向上センター(ASEC: Automobile Skill Enhancement Centres)を設置し、率先してITIのレベルを引き上げる取り組みを行っています。ASECではサービス工場を併設し、実用的なノウハウを提供しています。また施設面での支援に加え、マルチ・スズキ社は地元のマルチ・スズキサービス工場の協力を得ながら、常勤の講師、工具及び装備を提供することで、ITIの生徒の技能向上と就職を支援しています。



2016年度には海外産業人材育成委員会(HIDA)を通じて日本人専門家を招き、デリー市、プサ地区にあるITIに於いて2週間、講師、生徒に最新技術を指導しました。生徒達は世界基準のサービスや車体の修理方法等の目に見える技術面の指導の他、規律、時間厳守、清掃、安全、品質等の目に見えない行動面の指導を受けます。

### ●日本式ものづくり学校(JIM)

2016年度に日本及びインド政府は、インド製造業に貢献できる技術者を増やすことに関して合意しました。本提携を実現する為、マルチ・スズキ社はインド・グジャラート州メーサナ地区に職業訓練校「マルチ・スズキJIM(ガンパット ヴィディアナガール、メーサナ)」を開校することとしました。

技術指導に加え、JIMではカイゼン活動、品質活動(QC)等の日本式の現場業務指導を行います。自動車製造、サービスに関わる8つの技術コースを提供し、2017年8月から始動しました。



## 交通安全における取り組み

マルチ・スズキ社は運転技術向上や交通安全意識の啓発を目的とした、全国規模の交通安全プログラムを大々的に実施しています。交通安全推進を目指し、下記の取り組みを行っています。

### ●運転交通研究施設(IDTR: Institute of Driving and Traffic Research)

政府と連携して、乗用車及び商用車のドライバーのためのトレーニング施設を設立いたしました。科学的に設計された運転コースとシミュレーターを活用し、実践的なトレーニングが行えます。さらに、商用車ドライバーのために、健康管理指導やコミュニケーションの指導もっており、熟練の認定インストラクターが座学と実際の運転指導を担当しています。



### ●マルチドライビングスクール(MDS: Maruti Driving School)

MDSはマルチ・スズキディーラーと提携して開設される、IDTRより小規模な運転トレーニング施設です。IDTRと同等のトレーニングカリキュラムを用い、運転コースでの練習ではなく、実際の路上での指導を行っています。2016年度は新たに39ヶ所のMDSを開設し、合計で403ヶ所のMDSが建設されました。また、2015年に特別特定運転トレーニングコース「Unnati」を5都市で始めています。

### ●交通安全情報センター(RSKC: Road Safety Knowledge Centre)

都市部における交通安全を推進する為、ハリヤナ州交通警察と連携し、RSKCを設立しました。RSKCはIDTRにより運営されています。交通違反者及び免許取得中の教習生に対し、交通安全と交通ルールに関する講習をRSKCで行っています。

### ●交通安全講師育成プログラム

マルチ・スズキ社は交通安全の講師の育成に力を入れています。このプログラムの目的は、ドライビングスクールの優秀な交通安全専任講師を育成し、インド全土にマルチ・スズキ社の基準に沿った講習を広めることにあります。講師候補生たちは、講師としての熟練度を高め、コミュニケーションスキルや指導能力を高める為の研修を受けています。2016年度においては、379名の新任講師と377名の既存講師が研修を受けました。

### ●トラックドライバーへの交通安全講習

マルチ・スズキ社は工場生産した車両を運送するトラックドライバーに対し、専用の運転トレーニングコースを設け、柔軟なカリキュラム、及び専用の講座を提供し、サービス向上に取り組んでいます。

また、マルチ・スズキ社はトラックドライバーを対象とした1週間にわたる交通安全キャンペーン「ジャガリティ」を実施しました。このキャンペーンでは、健康診断、眼科検診の他、HIV検査及び診察、またゲームやクイズ、大道芸など様々なイベントを行いました。さらに安全運転を遂行し、車両を時間通りに傷つけることなく配送した優良ドライバーへの表彰も行っています。

### ●都市特定交通安全プログラム

グルガオンの交通警察と連携し通勤・通学者の交通ルールについての啓蒙や運転技術の向上を目指して、交通安全プログラム「Sabhya Road Bhavya Gurgaon」を実施しました。

### ●交通安全教育

マルチ・スズキ社は交通警察と連携し、様々なキャンペーンを通じ交通安全の重要性を啓発しています。

パキスタン

パックスズキモーター社

責任ある企業市民として行動するパックスズキ社は、特に教育、健康、環境保護活動の分野に貢献することを通して、社会をより良くすること、恵まれない人々の生活の質を改善することを目指しています。

教育支援プログラム

●工学系学生への奨学金

教育は社会を発達させる重要な役割を担っています。それゆえ、パックスズキ社は2013年に教育支援計画を開始しました。パックスズキ社は教育やキャリアの目標を追求する手助けをするために、2016年7月22日に「NED University of Engineering & Technology」の学生に55の奨学金を提供しました。



●健康・安全・環境への自己啓発セミナー

パックスズキ社は2015年10月31日に社員の子供たちの為に健康・安全・環境への自己啓発セミナーを実施しました。この取り組みの目的は定期的に健康の大切さ、安全に関する習慣及び自然保護への知識を子供たちに知ってもらうことです。工場見学も実施しました。セミナーには9人が参加し、閉会式で子供たちに認定証と寄贈品が送られました。



●公立学校の建設と改修プロジェクト

「学校改善計画」のもと、Government Girls Primary Community Model School Razzaqabadを建築改修しました。当該プロジェクトは教室と廊下の床張り、学校建屋及びトイレの改修、生徒及び職員への備品供給、フィルター、水質安定剤、ウォータークーラー、音響機器、遊具及び栽培場の設置等です。当該プロジェクトは2017年2月17日に完成記念式典を行いました。



●高校奨学金制度

経済的に恵まれない学生やパックスズキ社員及び嘱託社員の子供に対し、ガバメント・カレッジ卒業までの教育を財政面で援助する目的として、2014年「Higher School&Graduation奨学金制度」を始めました。

2017年2月27日、永尾博文社長(当時)は98の奨学金を授与し、奨学金対象者に対し工場見学、5S(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)及び改善活動の研修会を開催しました。



## 環境保全活動

### ●植林

2016年11月19日、自然豊かな国や健全な環境向上を目的とした植林活動計画を行いました。パックスズキ社西側及び南側の場所に合計で615本植林を行いました。



### ●ビーチ清掃キャンペーン

パックスズキ社は2016年10月29日カラチカシム港のルシアンビーチで清掃キャンペーンを行いました。パックスズキ社や近隣の仕入先から約250人を超える人々が家族とともに当該キャンペーンに参加し、約300キロのゴミが回収されました。



## 地域保健活動

### ●献血活動

サラセミアや血友病等の不治の血液病で苦しんでいる患者の救済を目的に、2017年3月27日、パックスズキ社は、「Indus Hospital」と共同で、パックスズキ社敷地内にて、献血活動を行いました。パックスズキ社と関係取引先の社員178名が献血を行いました。



## VTIトレーニング・職業訓練の実施(VTI Trainings)

パックスズキ社は、2016年6月・7月・9月・11月・12月及び2017年1月にVTI's (Vocational Training Institutes) と呼ばれる職業訓練を実施しました。スズキの二輪車の知識を習得し品質への理解を深めると共に、エンジン、冷却システム、トランスミッション、電気系統など様々な分野の技術的な知識をトレーニングすることを目的としています。期間中に1,131人の生徒が参加しました。



**タイ** スズキ・モーター・タイランド社

●環境保全活動

スズキ・モーター・タイランド社では積極的にCSR活動に取り組んでいます。

2017年2月12日に環境保護活動の一環として、チョンブリ県サタヒップのナンロンビーチでサンゴ礁の植え付けを行いました。

同社からは157人の従業員が参加し、豊かで美しいタイのサンゴ礁を守るためタイ海軍と共にサンゴの苗を土台に植え付けました。



**フィリピン** スズキフィリピン社

●台風22号被害に対する寄付活動

スズキフィリピン社は2016年11月にフィリピンに甚大な被害をもたらした台風22号(通称:ハイマー)からの復興を支援する為、ABS-CBN SAGIP KAPAMILYA に20万ペソ(約44万円)を寄付しました。ABS-CBN SAGIP KAPAMILYAとはABS-CBN Lingkod Kapamilya Foundation, Inc.が実施する緊急人道支援プログラムであり、復旧、災害リスク軽減、ならびに食糧や非食品類救済を災害居住区に提供するものです。



**フランス** スズキフランス社

●障がい者支援活動

スズキフランス社は「レブ・デ・ゴス(子供の夢)」という障がいを持った子供も含め、毎年9都市で1,000人以上の子供達が初めての飛行体験ができるイベントに2010年から協賛し、スタッフ移動用の車の提供と子供達用の待合ブースの運営を行っています。



オーストリア スズキオーストリア社

●スポーツ活動へのサポート

スズキオーストリア社は、様々なスポーツチーム・団体をサポートしています。サッカースクール「シュパース ミット デム バル(ボールで楽しむ)」、アイスホッケークラブ「ECレッドブル・ザルツブルグ」、障がい者選手「グンター・マッツィンガー」、オーストリアの水球クラブ「パリス・ロドロン・ザルツブルグ」などです。



●文化活動へのサポート

スズキオーストリア社は、文化活動へのサポートとして、ミュージカル・アンサンブル「ムー・ゼン」をサポートしています。彼らは新たなプロジェクト、ハリウッド映画「プロット・ウィズ・ザ・ビュー」をベースにしたブロードウェイミュージカル「ツム・シュテルベン・シェーン」で大きな成功を収めました。



●社会機関へのサポート

スズキオーストリア社は「ザルツブルガー・クレープスヒルフェ」と呼ばれる、家族にがん患者がいることで心理的な影響を受けている子どもたちを支援する社会機関をサポートしています。この組織にSX4 S-CROSSを提供し、巡回チームが、影響を受けている子供の家庭を訪問、子供の心理的なケアを図ることをサポートしています。



## 海外生産会社の人材育成支援

一般財団法人海外産業人材育成協会(AOTS)の受入れ研修事業への参画、また海外生産会社からの研修生の直接受入れにより、社内の各部門で研修を実施しています。これらの研修は、海外生産会社の生産活動を支える実践的な技術や技能の移転を効果的に行うことで開発途上国の産業発展に貢献しており、また、わが国との相互理解や友好促進にも寄与しています。

### 海外研修生受入会社(2016年度)

国名	会社名
インド	マルチ・スズキ・インディア社
	スズキ・モーター・グジャラート社
	スズキ・モーター・サイクル・インディア社
パキスタン	パックスズキモーター社
コロンビア	スズキコロンビア社

- 2016年度の海外研修生の受け入れ人数：140人
- 受け入れを始めた時からの累計人数：22,704人  
(1983年度～2016年度まで)

## スズキの財団活動等

### 公益財団法人スズキ財団

スズキは、1980年より公益財団法人スズキ財団を通じて、研究者の科学技術研究に対する助成活動を行っています。

#### 理念

今日、自動車産業は、エネルギー、地球温暖化、交通事故などの社会問題が深刻化する中で、省エネルギー、環境負荷低減、運転自動化など時代の要請に応えるべく、更なる飛躍の時期を迎えようとしています。このような状況の中で、小型自動車産業も国民のニーズに対応すべく、さらに一層の努力を続けていく必要があると考えております。そのためには関連する機械工業のより一層の高度な発展と、優秀な技術者の確保が何よりも大切です。そこで、機械工業の技術開発に関する援助・助成と、これらの分野に携わろうと意欲を燃やす若い人々に対する奨励援助を行うため、スズキ財団は、経済産業省ならびに各方面のご指導とご協力により設立され、活動を続けております。（スズキ財団は、1980年にスズキ(株)の創立60周年の記念事業として、関連企業とともに基金を寄託して設立され、平成23年4月1日、公益財団法人スズキ財団として新たなスタートを切ることとなりました。）

#### 財団の活動

##### ●基礎的・独創的研究に対する助成

環境や情報、制御、材料、医療関連などの技術に関する基礎的・独創的研究に対し、社会発展の基礎を築く研究に助成を行います。これまでに全国の大学・高専・研究機関の研究者969人に、12億9,530万円(2017年4月1日現在)の研究助成を行い、科学技術の基礎研究発展に貢献しています。

##### ●課題提案型研究に対する助成

地球環境の保全やエネルギー資源節約、運転自動化等、早急に取り組まなければならない課題に対し、研究者が知恵を集結し解決を目指す研究テーマに助成を行います。平成15年度より助成を開始し、これまでに「有機超弾性によるスマートな擬弾性材料の開発」等の23件の研究に対し、2億1,931万円(2017年4月1日現在)の助成を行っています。

##### ●研究成果普及助成及び研究者海外研修助成

科学技術分野の基礎的・独創的研究成果の更なる充実・発展を目的として、国内外で行われるシンポジウム・会議等の開催、或は海外で開催されるシンポジウム・会議への出席等にかかる経費の一部を助成しています。これまでに509件、1億5,305万円(2017年4月1日現在)の助成を行っています。

##### ●海外からの研究留学生に対する助成

静岡大学とハンガリーのブダペスト工科経済大学の2大学間研究者交流協定に基づき、2大学とスズキ財団がタイアップして、平成11年度から行っている事業です。これまでにブダペスト工科経済大学から15人の研究者が研究留学を行いました。



### ●海外自動車研修センターへの助成

平成28年度よりインドのグジャラート州内に設立された国際自動車センター機構(i-ACE)に対する自動車の設計、製造、サービスに関する研修のための機材・設備の助成を開始しました。

### ●インターアカデミアへの支援

ヨーロッパの8大学と静岡大学が、国際交流活動を行うために、学生と教職員の研究発表を中心にソーシャルプログラムを用いた国際会議(インターアカデミア)を行っています。スズキ財団はそうした活動にも積極的な支援を行っています。

### ●総資産、助成件数と助成金額

- ・総資産(2017年3月31日):103億3,079万円
- ・2016年度助成件数:75件(2017年4月1日までの累計:1,516件)
- ・2016年度助成金額:9,771万円(2017年4月1日までの累計:17億1,660万円)

## 公益信託進化学振興木村資生(もとお)基金への支援

病気の原因を解明し健康保持に努めて、楽しく豊かな生活をおくることは、人々の願いでもあります。進化学の研究部門でノーベル賞候補にまでなった、故木村資生博士の研究業績をたたえて、2004年12月、スズキの基金寄附によって「公益信託進化学振興木村資生基金」が設立されました。この基金では、遺伝学分野の研究を行い、大きな研究功績を残された方の顕彰を行っています。

## 公益財団法人スズキ教育文化財団

スズキは、2000年よりスズキ教育文化財団を通じ、静岡県内にて青少年の健全育成に寄与するための助成活動を行っています。同財団は、スズキ創立80周年記念事業として、スズキグループが基金の全額を寄託して設立した公益法人です。

### 財団の活動

#### ● 高校生・大学生への奨学金給付

静岡県内の高校生及び静岡県内の高等学校を卒業した大学生で、向学心がありながら経済的な理由で学業に専念できない方に、返済不要の奨学金を支給しています。2016年度は、高校生52人、大学生13人に総額1,998万円の奨学援助を行いました。

#### ● 静岡文化芸術大学への奨学金補助

社会に貢献できる人材を育成し、浜松地域の発展に寄与することを目的としている「静岡文化芸術大学スズキ奨学基金」が行う奨学事業に対する一部補助を行っています。

2016年度は、150万円の補助を行い、同基金が行う奨学事業を通じて、静岡県内の向学心のある大学生を支援しています。



#### ● 日系人学校「ムンド・デアレグリア学校」に経営支援

外国人学校支援事業として、外国籍の子どもたちに対する学習支援として、静岡県より学校法人の認可を受けている南米系外国人学校「ムンド・デアレグリア学校」(浜松市西区雄踏町、生徒数:幼稚園児から高校生まで275人(ブラジル系229人、ペルー系46人))に資金援助を行っています。

1990年日本の労働力を補うために入国管理法が緩和され、多くの南米系日系人労働者が浜松市を中心に住むことになりました。

「ムンド・デアレグリア学校」(浜松市西区雄踏町)は、この労働者の子供たちの学校です。2003年個人資金により設立、スズキを含む地元企業60社が支援を行ってきました。

2016年度は、650万円の資金援助を行い、「母国語で学習を積み上げ、日本語習得、そして日本の文化・習慣を学ぶことで日本社会に共生できる人材育成」を目指す同校を支援しています。



#### ● これまでの助成実績(2017年3月31日現在)

・奨学金給付	318名	(2億5,248万円)
・静岡文化芸術大学奨学金補助	6件	(930万円)
・外国人学校支援	7件	(8,950万円)